社会科副読本

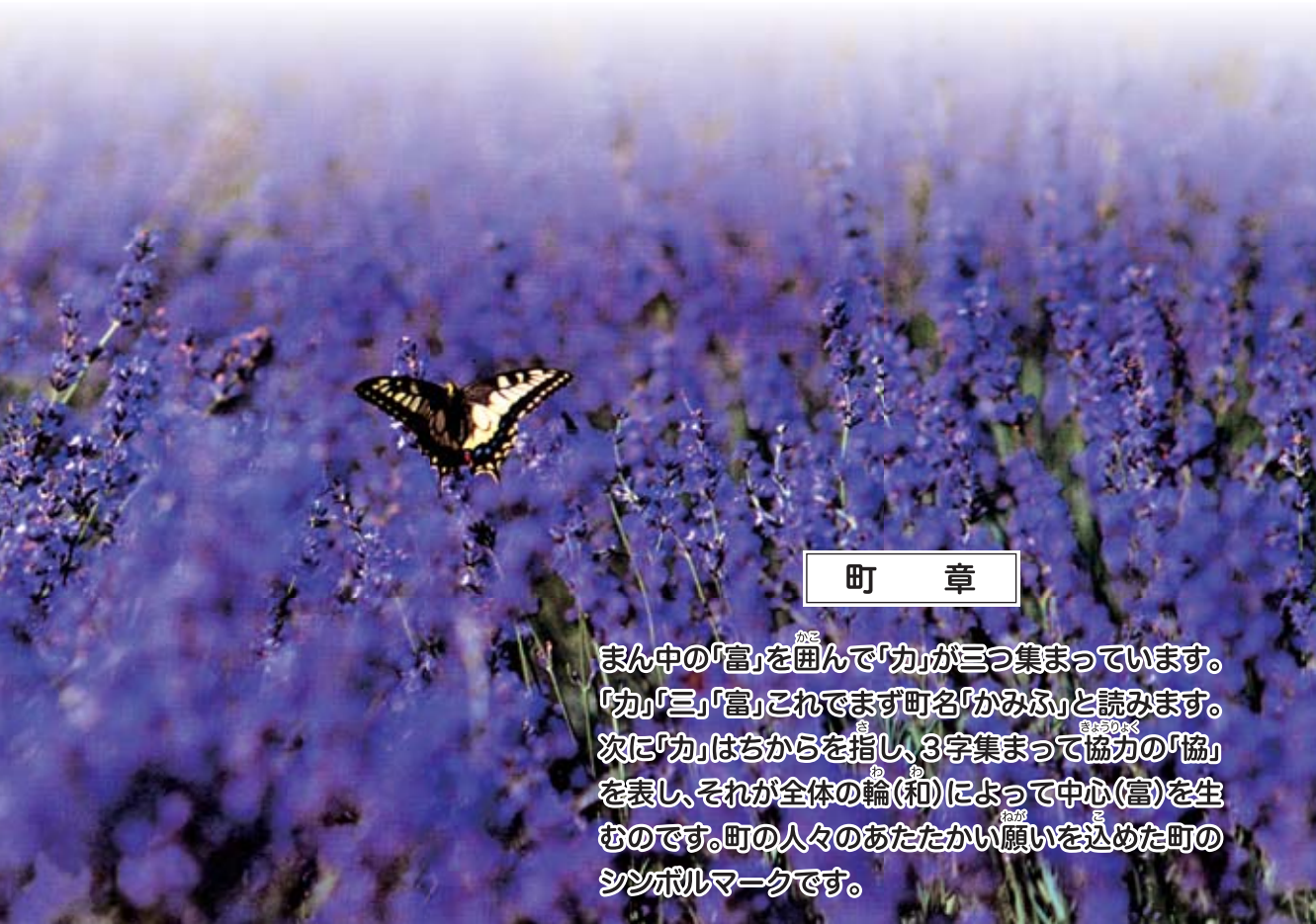
かみふらの

小学校3・4学年用

町民憲章

わたくしたちは、雄峰、十勝岳のふもと富良野平原の母なる地、上富良野町民であることに誇りをもち、この憲章をかかげて先人の偉業を継ぎ、明るく豊かな郷土をつくることにつとめましょう。

一、正しい心と健やかな体で、希望に生きましょう。
一、いたわりあって、楽しい家庭をつくりましょう。
一、決まりを守り、明るい社会をつくりましょう。
一、文化を高め、豊かな郷土をつくりましょう。
一、勤労をよろこび、自然の恵みに感謝しましょう。



町　章

まん中の「富」を囲んで「力」が三つ集まっています。「力」「三」「富」これでまず町名「かみふ」と読みます。次に「力」はちからを指し、3字集まって協力の「協」を表し、それが全体の輪（和）によって中心（富）を生むのです。町の人々のあたたかい願いを込めた町のシンボルマークです。

わたしたちの上富良野町

町木〔アカエゾマツ〕

四季を通じ緑あざやかな枝葉を絶やさず熟年する樹林は，雄峰十勝岳の厳しい自然の中でたくましく成長し，その雄姿は風格と威厳さを誇ります。

開基以来，経済木として住民の生活を潤し，まちの発展向上に役立っているとともに，上富良野町の活気に満ちた「まち」を象徴するにふさわしく，広く町民になじみの木です。

町花〔ラベンダー〕

７月半ばを過ぎると真夏の陽光をいっぱいにうけ，さわやかな紫色の花を見事に咲かせます。その新鮮な芳香は十勝岳のふもと一面に漂います。

かれんながらも高き理想と気品を誇るラベンダーは，人の心をいやすなごやかさがあり，人生に希望と勇気を与えます。上富良野町の人情深さと温かい思いやりのあるまちを象徴するにふさわしく，広く町民に親しまれています。

この本を勉強する皆さんへ

みなさんは，今まで，生活科の学習で，学校のまわりの自然やまちの様子を勉強してきましたね。

３・４年生の社会では，みなさんの住んでいる上富良野町を中心に，まちの様子，商店や農業，健康や安全を守る人々の活動，昔のこと，ほかの地いきとのつながりなどを学びます。

この本を活用して身近な地いきを見つめる目をやしない，いろいろな資料を利用する力をのばしてください。

そして，上富良野町がもっとよいまちになるよう，みなさんもいっしょに考えてみましょう。

上富良野町教育委員会

もくじ

1 もっと知りたい上富良野 ……1

(1) 町たんけんにでかけよう ……2
(2) 町めぐり ……7

2 上富良野の人々の仕事 ……17

(1) 町の人たちの仕事調べ ……18
(2) 買い物調べをしよう ……19
(3) 商店の仕事 ……23
(4) 農家の仕事 ……29
(5) 工場の仕事 ……36

3 昔のくらし ……45

(1) 昔の行事 ……46
(2) 昔の道具とくらし ……49

4 安全なくらし ……54
(1) 火事を防ぐ ……55
(2) 交通事故を防ぐ ……63
(3) 自然災害を防ぐ ……68

5 健康でゆたかな生活……72
(1) わたしたちのくらしとごみ ……73
(2) 町をきれいに ……75
(3) くらしと水 ……83
(4) 下水道 ……86

6 上富良野の歴史といせき，自然 ……90
(1) 昔の上富良野 ……91
(2) 災害にうちかった開拓だましい ……102
(3) いせきや自然を守る ……113

7 くらしのひろがり ……117
(1) 北海道の地図を広げて ……118
(2) 北海道の人たちのくらし ……122
(3) 上富良野の観光 ……126
(4) これからの上富良野 ……127

上富良野のできごと＜年表＞ ……130

1 もっと知りたい上富良野

「ぼくたちが住んでいる町は，どんなところかな。」

わたしたちは，２年生の「せいかつ」のたんけんや，

ラベンダー畑

これまでのくらしをふり返りながら，町でよく行く場所や，おすすめの場所を，学級のみんなでしょうかいし合いました。

町の様子を，さらにくわしく知るために，次のような学習をしてみましょう。

めあて

1　町の全体の様子を，高いところから見て調べてみましょう。

2　町の様子を実際に歩いて観察し，見学できないところは，絵地図や写真で調べてみましょう。

3　観察したことを，絵地図にまとめてみましょう。

4　上富良野町全体の様子を地図や写真を使って調べ，位置や場所を確認しましょう。

(1)町たんけんにでかけよう

高いところから

町のどこに何があるのか，学校の屋上から町をながめて，たしかめることにしました。「あっちのほうには，高い建物が見えるね。」「あっちって，どっちのこと？よくわからないよ。」とこまってしまいました。そこで，方位を使って表すことにしました。また，方位を知るために，方位じしんを使うことにしました。

方位じしんの使い方

○東西南北などの向きを方位といい，正かくな方位を知りたいときは，方位じしんを使います。

○色がついた方のはりの先を北に合わせます。

方位の見方

方位は，自分が立っているところを中心と考えて，たしかめます。

○顔を北に向けると，右手が東，左手が西，せなかが南になります。

町たんけんにでかけよう

学校のまわりの様子をもっとよく知るために，たんけんに出かけることにしました。そこで，白地図を見ながら，たんけんの計画を立てることにしました

たんけんコースの決め方

①調べに行きたい所を話し合おう。

②行きたい所が決まったら，地図でその場所をたしかめ，しるしをつけよう。

③しるしをつけた地図を見ながら，コースを決めよう。

たんけんの計画を立てよう　～たんけんメモをつくろう～

①見学すること，調べること

・建物や場所の様子（建物の名前，人たちの様子）

・交通の様子（道のはば，交通りょう，駅やバスていなど）

・土地の様子（住宅や店の多いところ，田や畑など）

②たんけんの約束

・交通のきまりを守って行動しよう。

・町の人にめいわくをかけないようにしよう。

③調べ方

・建物のマークや土地の様子の色などを決めておき，地図にかきこもう。

・気になるものがあったら写真をとろう。

絵地図をつくってみよう

自分たちで町をたんけんして調べたことやわかったことを，大きな地図にかきこんで，町の様子がわかる絵地図をつくってみることにしました。

絵地図のつくり方

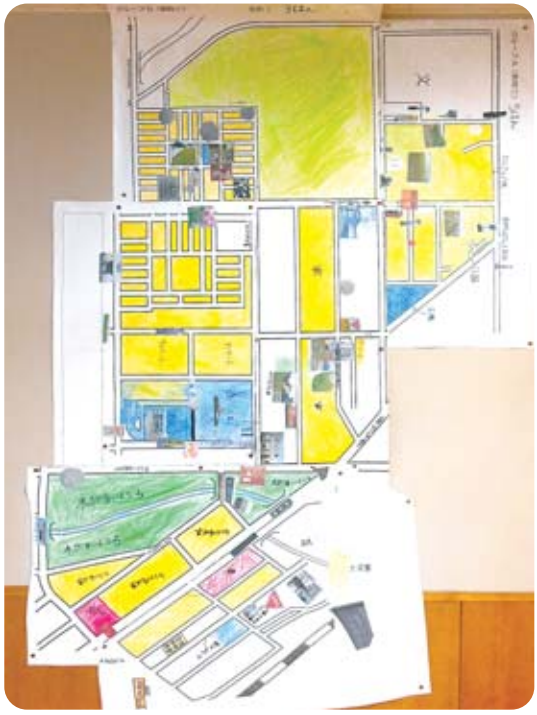
①自分たちがたんけんしてきた道を大きな地図でたしかめる。
②目印（めじるし）になる建物をかく。
③土地の様子のちがいを色でぬり分ける。
・お店が多いところ〜赤
・住宅（じゅうたく）の多いところ〜黄
・田んぼや畑（はたけ），木などの自然が多いところ〜緑（みどり）
④たんけんで発見（はっけん）したことやしょうかいしたいことを地図にかいたり，ふせん紙にかいてはったりしよう。また，とってきた写真（しゃしん）もはろう。

絵 地 図

絵地図を見ながら話し合おう

わたしたちは，まとめた地図を見て，町の様子(ようす)やもっと調(しら)べてみたいことについて話し合いました。

発表の様子



上富良野町地図

「公園がところどころにあるよ。みんなが休める場所(ばしょ)がたくさんあるんだね。」「大きな通りの近くや駅(えき)の近くには，たくさんのお店があるよ。」「黄色がたくさんあるよ。人が住んでいる場所が多いんだね。」わたしたちは，次(つぎ)に，学校のまわりいがいの上富良野町の様子について学習することにしました。

旭川から富良野までの地図

(2)町めぐり

市がい地

草分防災センター

国道で北の方から深山峠を下ると，信号のところで，旧国道と国道２３７号線に分かれます。旧国道を進むと，右手に草分防災センター（創成小学校あと）があります。このあたりは，上富良野の開拓が始められたところで，神社や記念碑，開拓記念館があります。

開拓記念館

富来橋のところから，江幌へ行く道と，日新・清富へ行く道が分かれています。

クリーンセンター

日新・清富の方へ行くと，クリーンセンター，日新ダムがあります。

上富良野西小学校の近くには，たくさんの公営住宅がならび，西保育園があります。市がい地に入ると，旧国道の両側にたくさんの商店がならび，農協や信用金庫などがあります。

駅　前

上富良野駅前には，運送会社・農協の倉庫があり，ハイヤーや，十勝岳温泉行きのバス乗り場があります。

市がい地の十字路で，左右に十勝岳方面と江花方面に行く道が分かれます。

旧国道は，ふみ切りのところで曲がりますが，その近くには，公民館・中央保育園・島津公園などがあります。

公民館

踏切周辺

ふみ切りをわたると，郵便局・ガソリンスタンドがならんでいます。

交番の前の十字路で，左へ曲がると，上富良野小学校があります。

右へ曲がると，町役場・消防署・町立病院・保健福祉総合センター「かみん」などがあります。

かみん

旧国道は，神社の手前で，右へ曲がります。自衛隊の正門前・島津の水田を通り，中富良野町や富良野市へと続いています。

自衛隊正門前

上富良野神社

上富良野神社は，たくさんの木に囲まれ，春にはさくら・つつじが咲き，夏には木かげをもとめる町の人たちの，いこいの場になっています。

神社・上富良野中学校のところから右へ曲がると，東中へ行く道になっています。

自衛隊の東門を過ぎると，富原・東中の水田が広がっています。

山の方には，十勝岳のすそ野が続き，東中の畑が広がっています。

かみふらの工房

右の方には，かみふらの工房の肉しょり工場・セメント工場があります。

この道は，東中・中富良野の旭中・富良野の鳥沼へと続いています。

社会教育総合センター

自衛隊東門から，左へ曲がると社会教育総合センターがあり，十勝岳温泉へ行く道のところに上富良野高校があります。

このあたりは，旭町自衛隊かんしゃ・公営住宅などがたっています。

※旧国道とは，1988（昭和63）年の10月に上富良野バイパスがかんせいするまで，国道であった道路をさします。げんざいは，道道吹上上富良野線（フクヤ薬局～旭川バイパス入口），道道上富良野停車場線（フクヤ薬局～自衛隊側バイパス入口）とよばれています。

東中（ひがしなか）

東中は，町の南の方にあります。東側（がわ）には，十勝岳（とかちだけ）のすそ野（の）がひろがり，畑が多く，西側には，水田がひらけています。

東中市がい地

東中の市がい地には，小学校・郵便局（ゆうびんきょく）・東中会館（かいかん）・そう庫（こ）などが，集まっています。

道道（どうどう）上富良野旭中（あさひなか）富良野線を通って，東中へ向かうとビニールハウスが目につきます。その中で，メロンやミニトマトなどが作られています。

温水ため池

道道上富良野旭中富良野線を通り，北１９号線道路（どうろ）から，倍本（ばいほん）の方に上がって行き，東１２線に曲（ま）がると，大きなため池が見えます。温水（おんすい）ため池（いけ）といい，東中の水田に水をおくる，とても大切なため池です。

江幌・静修

江幌・静修は，町の北西の方にあります。旧江幌小学校や公民館（「寿の家」）があり，江幌・静修地区の中心となっています。

旧江幌小学校

畑では，春の融雪剤まきから秋のとり入れまで，いそがしく働く農家の人たちのすがたがいつでも見られます。じゃがいも・ビート・豆類を中心に，小麦・かぼちゃなどをつくっている農家がほとんどです。

江幌から北の方へ行くと，静修地区があります。畑作中心の農家が点々とちらばって見えてきます。

日新・清富

日新・清富は，町の北の方にあります。

日新地区は，玉ねぎ・じゃがいも・とうもろこし・ビートなどの畑が広がっています。

日新ダム

また，日新ダムがあります。日新ダムは，農業用水をためるところです。

清富地区は，上富良野と白金温泉のほぼ中間にあたり，旧清富小学校があります。野菜づくりをする農家がほとんどで，じゃがいも・豆類・ビート・かぼちゃ・とうもろこしなどがつくられています。中でも，中心となっているのは種いもづくりで，遠く本州方面まで出荷されています。

旧清富小学校

また，ぶたや牛をかう農家もあります。

学習のまとめ

わたしたちは，上富良野町の様子を知るために，町めぐりをしたり，絵地図を見たりして，同じ町の中でも，場所によって，ちがいのあることがわかりました。

まとめ

1　町全体をながめると，市がい地になっているところ，田・畑の多いところ，牛をかっているところ，森林の多いところなど，場所によってちがうところがある。

2　市がい地には，商店の多いところ，住宅の多いところ，学校や公共の施設が多いところなどがある。

3　町めぐりをして，調べたり，絵地図にかいたりすることで，町ぜんたいのようすやとくちょうがわかる。

わたしたちは，上富良野町の様子を調べて感じたことやわかったことなどをたくさんの人に知ってもらいたいと考えました。そこで，観光のポスターをつくることにしました。

観光のポスター

ポスターの作り方

①調べてわかったことの中で，みんなに伝えたいことは何か，グループで考え，話し合いましょう。

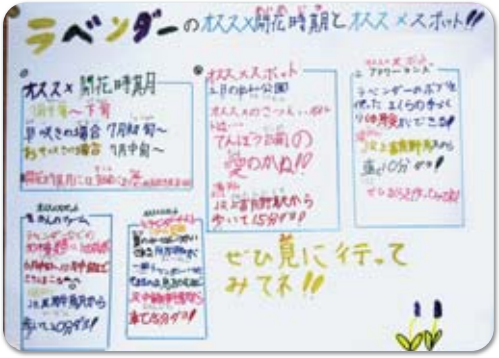
【テーマの例】

・おすすめのお店しょうかい
・上富良野の駅前通りの様子
・みんなのための公共の施設
・美しい自然
・おすすめの観光スポット

観光のポスター

②模造紙などの大きな紙を用意し，伝えたいことを整理して書きましょう。

・読みやすいように，文字は大きく，はっきり書きましょう。
・写真をはったり，絵をかいたりして，見やすくまとめましょう。
・調べた場所が，町のどのあたりにあるのか，地図で表しましょう。
・調べて考えたこと，感じたことなども，いっしょに書きましょう。



観光のポスター

完成したポスターは，グループごとに発表し，おたがいに感想を話し合いましょう。

2 上富良野の人々の仕事

商店の仕事

工場の仕事

わたしたちは，今までの学習で多くの働く人と出会いました。「お店で働いている人がいたね。」「ほかにも，どんな仕事があるのか調べてみたいね。」

わたしたちは，上富良野町で働く人の仕事の様子を調べることにしました。

めあて

1　上富良野町の人たちが，どんな仕事をしているのか，特徴を調べてみましょう。

2　買い物調べを通して，家の人がどのようにして店を選び，買い物をしているかを調べてみましょう。

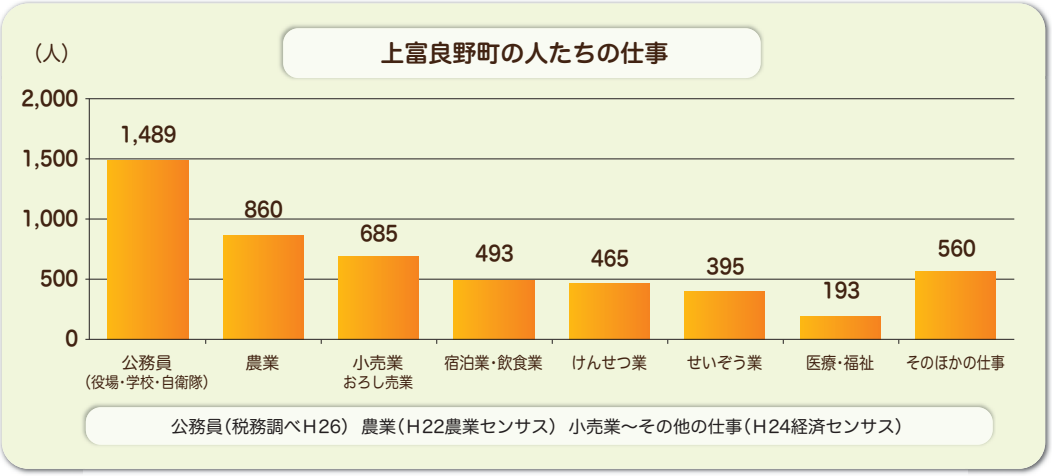
3　お店では，お客さんに品物を買ってもらえるようにどんな努力やくふうをしているかを調べてみましょう。

4　物をつくる人たちの仕事の進め方のくふうについて調べてみましょう。

(1)町の人たちの仕事調べ

上富良野町の人たちが，どんな仕事をしているのか，町役場へ行って，係の人に聞きました。

町全体の人々の仕事を調べてみると，公務員，農業が多く，サービス業，小売業などがこれにつづきます。



市がい地のまわりには，農業の仕事をしている人が多く，市がい地の中心では，役場，農協，商店，銀行，工場などで仕事をしている人が多いです。また，町に自衛隊のちゅうとん地があるため，ほかの町にくらべて公務員が多いということも教えてもらいました。

では，上富良野町の人々のいろいろな仕事の様子や進め方，くふうなどについてくわしく調べることにしましょう。

(2)買い物調べをしよう

買い物調べ

わたしたちは，家の人たちがふだんどんな店で買い物をしているかを話し合いました。

「きのう，家の近くのスーパーマーケットでパンを買ったよ。」「わたしの家も，パンを買ったけれどコンビニエンスストアで買ったわ。」「みんな同じ町に住んでいるのに，買い物をしているお店がちがうのは，なぜなのかな。」「それぞれのお店に，よいところがあるから，店を選んで買い物をしているのではないかな。」

そこで，自分たちの家の買い物をくわしく調べるために，買い物カードを書くことにしました。

買い物カードの書き方

①お店でもらったレシートを見て，どの店で何を買ったかを調べる。
②日にち，お店，買った物を買い物カードに書きこむ。
③いっしょに買い物に行ったり，調べて気づいたりしたことや家の人から教えていただいたことも書きこむ。

買い物カード

組　名前（　　）

日付・お店	買った物	気がついたこと
8月14日（金） ・セブンイレブン ・ふじスーパー	・たまご　・おにぎり ・ジュース　・アイス ・野菜　・くだもの	・近くのセブンイレブンに行くことが多い。 ・野菜やくだものはふじスーパーで買うことが多い。
8月15日（土） ・旭川西イオン	・服　・おかし ・ジュース　・ノート	・家族の仕事がお休みだったので，車で旭川に行って，買い物をした。

わたしたちは，買い物カードで調べたことをグループまたはクラス全体で，表やグラフにまとめてみました。

表の作り方

①表題と調べた日にちを書き，店と人数を書き入れるらんをつくる。

②買い物に行った店を書き入れる。

③どの店に何人行ったか，「正の字」で数える。

④数字を書き入れる。

平成 27 年度　買い物調べ　上富良野西小学校３年生

○日にち：8月24日（月）～28日（金）

お店の名前	人数	
	正の字	数字
どうふ屋さん	一	1
ニコット	一	1
ふじスーパー	正下	9
セイコーマート	一	1
セブンイレブン	下	3
ベストム（中ふらの）	丁	2
ツルハ	丁	2
あさひ	一	1
ローソン	一	1
その他		

○日にち：8月22日（土）23日（日）

お店の名前	人数	
	正の字	数字
ふじスーパー	下	4
セブンイレブン	丁	2
ベストム	丁	2
ローソン	一	1
アークス	一	1
ユニクロ	一	1

グラフのつくり方

①買い物に行った人数の多い順（じゅん）に，左から店の名前を書く。「その他の店」は，最後（さいご）に書く。

②たてのじくに，いちばん多い人数が書きこめるように，めもりを書く。

③グラフの表題（ひょうだい）と，めもりの単位（たんい）（人）を書く。

④めもりに合わせて，○を書きこむ。（シールをはる）

できあがった表やグラフを見て，気がついたことを話し合いました。

話し合いの様子

○近くのスーパーマーケットやコンビニエンスストアで買い物をする人が多い。

○スーパーマーケットで食料品を買うことが多い。

○休日には，平日にくらべて富良野市や旭川市で買い物をする人が多い。

○平日のちょっとした買い物は，近くのコンビニエンスストアですませることがある。

わたしたちは，多くの人が利用するスーパーマーケットについてくわしく調べてみることにしました。

グラフを作成している時の様子

(3)商店の仕事

計画を立てよう

はじめに，スーパーマーケットによく買い物に行くわけを話し合いました。

○売り場が広く，品物の種類が多いから。
○いろいろな種類の品物を１つのお店で買うことができるから。
○広告（チラシ）で，安い日や安い品物を知らせてくれるから。
○近くて便利だから。

次に，見学の計画を立てるために，調べ方や気をつけることなどをみんなで考えました。

調べる

【調べること】
○品物を安く売るためにくふうしていること
○買い物をしやすくするためにくふうしていること
○よい品物をそろえるためにくふうしていること

【調べ方】
○お店の様子（通路の広さや品物のならべかた）を観察する。
○仕事をしている人の様子を観察する。
○店で働いている人たちにインタビューする。

【気をつけること】
○ほかのお客さんの買い物のめいわくにならないようにしよう。
○インタビューは，礼ぎ正しくしよう。
○売っている品物には，さわらないようにしよう。

スーパーマーケットをたずねて

わたしたちは，スーパーマーケットを見学して，店の様子を観察（かんさつ）したり，お店の人にインタビューしたりしました。

売り場

売り場

売り場

レ　ジ

駐車場

入り口

お店の中では，たくさんの人たちが仕事をしていました。わたしたちは，どんな仕事をしていて，どんなことに気をつけているのかをたずねてみました。

品物をならべている方のお話

品物の日付を確認して，商品をならべています。あと，常に整とんして，品物をきちんとならべるようにしています。

レジをうっている方のお話

ただレジをうつだけではなく，いたんだりした商品やこわれたりした商品がないか，確認しながらうっています。

品物の売れぐあいを調べている方のお話

パソコンを見ながら，いろいろな品物の売れぐあいを確認しています。

仕入れの仕事をしている方のお話

普通の日と特売の日では仕入れの量を変えて仕入れるようにしています。特に生ものなどは品物を切らさないように，あまらないように気をつけて仕入れています。

おそうざいを作っている方のお話

衛生面に気をつけて作っています。また，お客さまが満足するように，少量パックを作ったり，家族用のパックを作ったりしています。あと，できたてのおそうざいを出すようにしています。

魚をおろしている方のお話

常に新鮮な魚を売るようにしています。お客さまが満足するように，魚の切り身の大きさを考えています。また，家族の人数に合わせて，魚の切り身の数がちがうパックを作っています。

店長のお話

常に笑顔でいるようにしています。買い物に来たお客さまが気持ちよく買い物をして帰ってもらえるように，商品がきちんとならんでいるか，ひょうじはまちがっていないか，品切れの商品はないか，冷凍食品などの温度はちょうどよいか，清掃がきちんとされているかなど，常にお店の中をチェックしています。

品物はどこから

わたしたちは，いろいろな種類の品物が，どこから運ばれてくるのか不思議に思い，調べることにしました。そして，調べたことを地図にまとめてみました。

地　図

スーパーマーケットの段ボール箱やねふだに品物がつくられた場所が書いてありました。その中には，外国でつくられた物もありました。また，近くの農家でつくられたより新せんな野菜やくだものがありました。「地産地消」の取り組みを進めていることがわかりました。

ほかの店のくふうも調べよう

わたしたちは，スーパーマーケットを調べていくうちに，ほかの店についても知りたくなりました。そこで，ほかの店のよいところやべんりさについて話し合ってみました。

大道時計楽器店

専門店

- お店の人と相談しながら買い物が出来る
- 近くなので，自転車や歩いての買い物ができる

セブンイレブン

コンビニエンスストア

- 家の近くにあり，早朝や夜遅くでも開いている。
- 買い物以外にも，にもつを送ったり，受けとったりできる

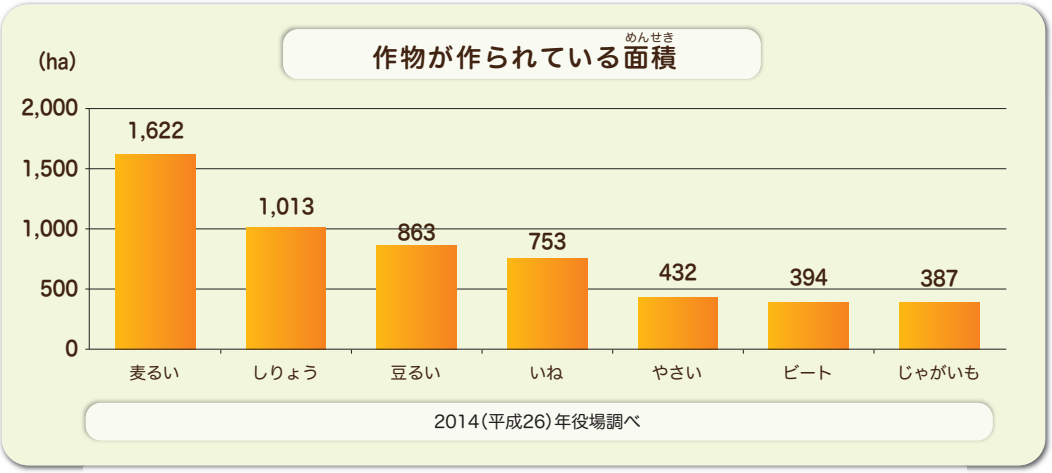
イオン旭川西店

大型店（ショッピングモール）

- いろいろなお店があるので，品ぞろえが豊富
- 駐車場が広く，車で行くのがべんり

(4)農家の仕事

わたしたちは，スーパーマーケットを見学したときに上富良野町でつくられているものが売られていることに気がつきました。「そういえば，近くに田んぼがあるね。お米をつくっているんだね。」「わたしの家ではメロンをつくっているよ。」「わたしたちの町でつくられているものは，どんなものがあるのかな。」自分たちが住んでいる町では，どこでどのような作物をつくっているのか，くわしく調べてみることにしました。



わたしたちは，上富良野町で，たくさんの種類の作物がつくられていることを知りました。その中で，お米をつくる仕事についてくわしく調べることにしました。

米ができるまで

農家の人たちは，雪の消える４月に，ビニールハウスの中で，苗を育てます。また，４月下旬から，トラクターで，田をたがやします。

トラクター

田植機

５月になると田植えがはじまります。田植えは，機械で行います。

６月から８月にかけては，いねがよく育つ時期なので草取りや，いねの病気予防，害虫のくじょ，水の調節などに気をつかいます。

ヘリの農薬散布

９月の中ごろになると，いねかりが始まります。１年で一番いそがしい時期になります。コンバインの音が，１日中聞こえます。

コンバイン

コンバイン

かり取られたいねは，かんそうきにかけた後，多くが中富良野町にあるライスセンターに運ばれます。ライスセンターで，もみから玄米になった後，精米工場に運ばれます。そこで精米し、ふくろにつめられて，商品になり，全国各地に出荷されます。

ライスセンター

米づくりのくふう

おいしいお米をつくるためのくふうや苦労についてインタビューをしてみました。

米づくり農家の瀬川さんのお話①

わたしたちの仕事の多くは，機械でします。機械は，短い時間にたくさんの仕事ができます。機械が使いやすいように水田を大型にし，道を広げ，用水路を整える仕事も進めています。また，よい米をつくるために草を取り，病気や害虫をふせぐために農薬を使います。農薬は，人間に害をおよぼすことがあるので，まく回数をへらしたり，使う時期や使い方に注意をしたりしています。

米づくり農家の瀬川さんのお話②

心配なのは，天候です。天候に左右されて，お米のとれる量が増えたり減ったりしますし，計画通りに作業が進まないことがあります。また，お米の価格が安定しないなどの不安があります。

水田

代掻き

米づくり農家の瀬川さんのお話③

数年前から，直播米の栽培を進めています。直播米とは，田んぼに直接，「もみ」をまいて栽培したお米のことです。この方法によって苗づくりなどの手間をへらすことができます。手間がへった分，多くの田んぼの面積を使って，お米を作ることができます。このようにさまざまなお米のつくり方が進められています。

直播米づくりのようす

お話を聞いて，農家の人が安全でおいしいお米をつくるためにくふうしながら仕事をしていることがよくわかりました。北海道米は，全国の中でもたいへんおいしいと注目されています。

上富良野町の畑の仕事

上富良野町では，米づくりのほかに，じゃがいも，ビート，豆，麦などたくさんの作物がつくられています。とくにアスパラガス，とうもろこし，ホップ，メロンなどは，上富良野町を代表する作物です。これらの作物は，寒さに強く，上富良野町の土地にあった作物といえます。

ホップ

メロンの出荷

畑の作物は，毎年同じ土地に同じ作物を植えると，よく育たないので，どこに何を植えるか，よく考えて栽培しています。また，作物によって種をまく時期や，ひりょう，手入れの仕方がちがいます。このように，農家の人は，いろいろなくふうをしながら仕事をしています。

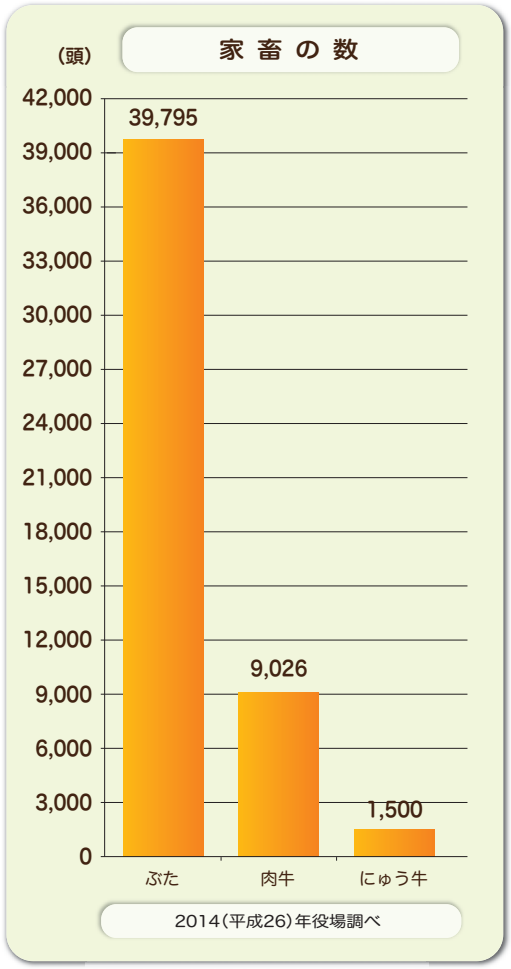
上富良野町の家ちくの仕事

日の出，旭野，東中，清富，江花，草分などでは，ぶたや乳牛・肉牛などたくさんの家ちくがかわれています。

牛をかうには，広い牧草地が必要なので，けいしゃ地を平らにしてきました。また，冬のえさをたくわえるくふうもしなければならないので，バンカーサイロやスタックサイロなどが活用されています

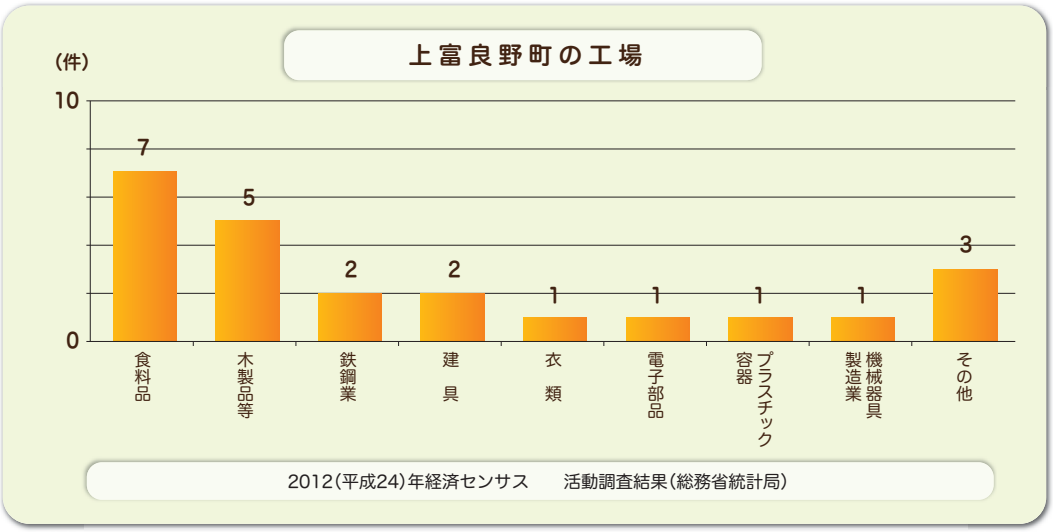
養豚

バンカーサイロ



(5)工場の仕事～工場見学に出かけよう～

次に，わたしたちは，工場の仕事について学習することにしました。「わたしの家の近くに工場があるよ。」「上富良野町にはどのくらいの数の工場があるのかな。」そこで工場の種類や数を調べてみました。



上富良野町には，食料品や木製品などたくさんの工場があります。上富良野町でとれる物を原料にしている工場と，ほかの町から原料をもってきている工場があります。工場でつくられた製品は，北海道だけではなく外国に売られているものもあります。そこで，わたしたちは，プラスチック製品の工場である「竹本容器株式会社」について調べることにしました。

計画を立てよう

竹本容器株式会社は，化粧品や食品などの容器やキャップなどをつくる工場です。わたしたちは，工場に見学に行くことにしました。「原料は何かな？」「工場では，どのくらいの人が働いているのかな。」「どのくらいの数の容器やキャップをつくっているのかな。」

工場見学カード

【調べること】
- 容器ができるまで
- 使っている機械
- 働いている人の仕事の様子
- 働いている人のふくそう

【聞いてくること】
- 容器の原料は何か
- 工場で働いている人の数
- くふうしていること
- 気をつけていること

【まとめ方】
- パンフレットにまとめる

工場で見てくることや聞いてくることを話し合って，見学カードに書きました。

いろいろな容器

いろいろなキャップ

容器やキャップの原料は何か

容器やキャップの原料は，主にプラスチックです。そこで，原料であるプラスチックについて，工場の人に話を聞いてみました。

工場で働く下宿さんのお話①

容器やキャップの原料は，プラスチックです。原料となるプラスチックは，材質や色の１つ１つにちがいがあります。プラスチックをまぜることで，１５００種類以上の製品をつくっています。そんなにたくさんある理由は，お客さんから，いろいろな形や色などの要望があるからです。

「倉庫にたくさんの種類のプラスチックがあったね！」「プラスチックを組み合わせていろいろな形や色になるんだね。」

原料のある倉庫

原料のプラスチック

容器ができるまで

工場の人にじっさいに容器を作っているところを見せてもらいました。

キャップ

①原料をまぜてとかす。

混合機

主となる原料と色をまぜ合わせます。原料によって，温度を変えてとかします。

プラスチックがとけている様子

温度は，160度～250度にもなるよ。

②型に入れて成形します。

成形機

とけた原料を金型に流しこみます。一度に２～４つの製品ができあがります。

たくさんの金型

容器に合わせて，たくさんの金型があるよ。

③ふたをしめます。

キャップしめ機

ワンタッチキャップのふたは、４つ同時に機械でしめます。

ここまで作業は25秒。
1日6千～7千個もできるよ！

④検査をしてはこにつめます。

検査台

手作業で，でき上がった製品を１つ１つ検査します。

でき上がった製品は

検査室で，もう一度検査されます。 → **出荷**

検査室

倉庫

働いている人のくふう

工場では，約５０名近くの人が働いています。そこで，わたしたちは，働いている人に，どんなことに気をつけているか聞いてみました。すると，さまざまなくふうがあることがわかりました。

工場で働く下宿さんのお話②

製品にゴミやかみの毛が入ってはいけないので，服装や身だしなみには気をつけています。また，虫が工場内に入らないように防虫剤をまいたり，防虫シートをつけたりしています。また，すぐに扉をしめることを心がけています。

工場で働く下宿さんのお話③

製品の検査は，４回行い，それぞれ別の人が検査しています。ちがう人が検査することで，不良品が出荷されないようにしています。

検査の様子

検査の様子

製品はどこへ

わたしたちは，工場見学をしたあと，倉庫から製品がトラックに積まれて，運ばれている様子を見ました。そこで，できあがった製品は，どこに運ばれていくのか，聞いてみました。

工場で働く下宿さんのお話④

作られた製品は，茨城県にある大きな工場に運ばれていきます。そこから，日本全国の各地へと運ばれていきます。

トラックに積まれる製品

トラック

世界に広がる竹本容器

竹本容器の工場は，日本に６か所（上富良野・旭川・茨城・埼玉・富山・大阪）あります。

また，外国には，中国に２か所（上海・昆山）あります。

世界に広がる竹本容器

パンフレットにまとめよう

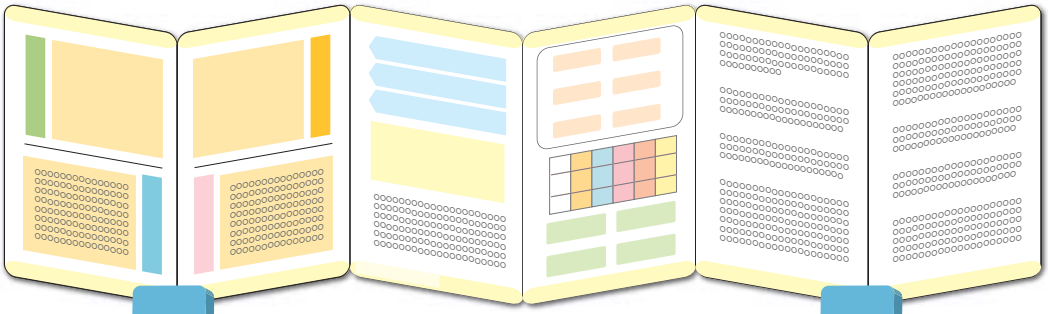
わたしたちは，これまで調べてわかったことや感じたことをパンフレットにまとめることにしました。

パンフレットのつくり方

①二つ折りにした紙に調べてわかったことや，感じたことを書いていく。

②セロハンテープなどで紙をつなげていく。自分の意見や感想を書いた紙は，最後につなげる。

③１まいめの紙のうらに表紙をつくる。



パンフレット

製品ができるまで

混合機で原料をまぜる

製品の検査

竹本容器を調べて

ぼくは，竹本容器株式会社を見学して，たくさんの機械があることにおどろきました。そして，作られた製品は，茨城県の工場に運ばれることがわかりました。

学習のまとめ

わたしたちは，上富良野の人々の仕事について調べてきました。わかったことを話し合いました。

まとめ

1　町の人たちの仕事には，いろいろな仕事がある。

2　商店で働く人は，品物がよく売れるように，お客さんに喜んで買ってもらえるように，いろいろなくふうをしている。

3　農家の人々は，安全でおいしく食べてもらうために，いろいろなくふうをして，新しい農業をすすめている。

4　工場で働く人は，お客さんの要望に応えるために，いろいろなくふうをしたり，機械を使ったりして製品をつくっている。

人々は，自然や地形を上手に利用し，いろいろなくふうをして，仕事をしていることがわかりました。また，北海道の各地，本州などの日本各地，外国ともつながりがあることがわかりました。

3 昔のくらし

わたしたちの町上富良野町には，昔から伝えられてきた行事や昔の人が使っていた生活の道具，昔のことを伝える記念碑などがたくさん残っています。

昔から伝えられてきた行事や昔の道具について，さらにくわしく知るためにつぎのような学習をしてみましょう。

まつりの様子

めあて

1　上富良野町の行事について図書館やインターネットなどで調べてみましょう。

2　町の行事にくわしい人から話を聞いて，わかったことをまとめましょう。

3　昔の道具やくらしの様子について，家の人にインタビューをしたり，郷土館を見学したりして調べましょう。

4　道具やくらしの様子について，調べてきたことをじゅんばんにならべて，年表をつくりましょう。

(1)昔の行事

上富良野町の行事

わたしたちは，町のおまつりや行事についてくわしく調(しら)べることにしました。

インターネットの上富良野町のホームページや，役場(やくば)の方にお話をうかがって調べてみると，上富良野町には１年中，たくさんの行事があることがわかりました。

そこで，わたしたちは，７月に行われる「花と炎の四季彩(ほのおしきさい)まつり」についてくわしく調べることにしました。

町に残る年中行事

１月　北の大文字(だいもんじ)

２月　かみふらの雪まつり

６月　十勝岳山開(とかちだけやまびら)き

７月　かみふらの花と炎の四季彩(ほのおしきさい)まつり

８月　上富良野神社祭(かみふらのじんじゃさい)　ぼん踊(おど)り

９月　十勝岳紅葉(こうよう)まつり　東中神社祭(ひがしなかじんじゃさい)

雪まつり

紅葉まつり

みんなが楽しむ四季彩まつり

四季彩まつりの様子

わたしたちは，四季彩まつりについて，調べたいことや知りたいことを話し合った後，インターネットで調べたり，役場の産業振興課の方に来ていただいて，お話を聞いたりしてみました。

産業振興課の佐藤根さんのお話①

「花と炎の四季彩まつり」という名前では，平成１６年から行っていますが，おまつりはもっと昔から行っています。昭和５３年に「北海ホップまつり」として始まり，ラベンダーが上富良野町の町花となったのを記念して，昭和５７年からは「かみふらのラベンダーまつり」として行ってきました。その頃，「十勝岳火まつり」も別に行っていましたが，２つのおまつりを統合しようということになりました。「かみふらの花と炎の四季彩まつり」という名前は，町民の皆さんに決めてもらいました。平成２７年で３７回目になります。

産業振興課の佐藤根さんのお話②

四季彩まつりの目的は，上富良野町のシンボルである十勝岳の安全祈願と，きれいなラベンダーの花を多くの方に見てもらうという観光面の２つです。

四季彩まつりの様子

花火

産業振興課の佐藤根さんのお話③

平成２５年で２万人。平成２６年には，およそ３万人の人が来ました。上富良野町の人口の２～３倍ほどの人がやってきます。

「たくさんの人が四季彩まつりに来るんだね。」「四季彩まつりは，昔ちがう名前だったんだね。」わたしたちは，昔から続いているおまつりや行事がこれからもずっと続くように協力していきたいと思いました。

(2)昔の道具とくらし

昔の道具をさがそう

わたしたちは，昔のくらしの様子がわかる写真を見て，どんな道具が使われているのかさがしてみることにしました。

また，わたしたちは，古い道具を使っていたころのくらしは，どんな様子だったのかくわしく調べることにしました。

昔のくらしの様子

郷土館で調べよう

わたしたちは，昔の道具やくらしの様子についてくわしく調べるために，郷土館に行くことにしました。郷土館には，たくさんの昔の道具がありました。そこで，わかったことや気づいたことを絵カードにまとめました。

絵カードのまとめ方

①道具の名前，道具が使われていた時期，道具を見たりさわったりして気づいたことやふしぎに思ったことなどを書く。
②道具を観察しながら，絵をかく。
③道具が使われていた時期は，おもに次のように分ける。
・おじいさん，おばあさんが生まれ育ったころ（およそ６０年前）
・お父さん，お母さんが生まれ育ったころ（およそ３０年前）

黒電話

○使われていた時期
・おじいちゃんが子どものころ
○気づいたことやふしぎに思ったこと
・黒いプラスチックのようなものでできている。
・どうやって，電話をかけるのかな？

絵カードの例

黒電話

昔のくらし

わたしたちは，おじいさん，おばあさんが生まれ育ったころのくらしは，どんな様子だったのか知りたくなりました。また，どんな遊びをしていたのかも調べることにしました。そこで，おじいさんやおばあさんにインタビューをすることにしました。

インタビュー①（おじいちゃん，おばあちゃんが子どものころのようす）

戦争が終わって，だんだん世の中がゆたかになり，新しいものや道具がふえてきたんだよ。テレビをもつ家庭も増えたわ。

インタビュー②（おじいちゃん，おばあちゃんが子どものころの遊び）

昔は，外でベーゴマや缶けり，めんこなどをして遊んでいました。女の子は，羽つきやお手玉遊びをしていました。

インタビュー③（お父さん，お母さんが子どものころのようす）

デパートやお店がふえて，買い物をするのにもだいぶ便利になりました。車もどんどん多くなっていきました。

インタビュー④（お父さん，お母さんが子どものころの遊び）

おにごっこやサッカーなど外遊びをたくさんしていました。雨がふって外で遊べない日は，家の中でしょうぎやオセロをしていました。

年表をつくろう

わたしたちは，昔の道具やくらしの様子について，これまで調べてきたことを順番にならべて，年表をつくることにしました。

年表のつくりかた

①３つの時期ごとに，年表のわくをつくる。
②写真や絵カードなどを，あてはまる時期にはる。
③調べてわかったことを書く。道具のうつり変わりのほかにも，くらしの様子や上富良野町の様子なども書く。

	おじいさん，おばあさんが子どものころ	お父さん，お母さんが子どものころ	今
道具（電話）	黒電話 ・ダイヤルのように回して使う ・相手にかけるのに時間がかかる	プッシュフォン ・ボタン式がついている ・白っぽい色	スマートフォン ・持ち運びができる ・軽い ・ボタンではなく画面を押す
あそび	めんこ ・厚い紙で丸い形や四角い形をしている ・力士やロボットなどの絵がかかれている	ルービックキューブ ・６つの面に９この正方形がある ・それぞれの面に青や赤，緑などの色がついている	３ＤＳ ・持ち運びができる ・インターネットができる。
上富良野のできごと	1950年～ ・自衛隊の駐屯地ができた。 ・町立病院ができた。 ・上富良野西小学校ができた。	1975年～ ・日の出公園が完成した。 ・給食がはじまった。 ・島津公園が完成した。	2000年～ ・パークゴルフ場ができた。 ・かみんがオープンした。

学習のまとめ

わたしたちは，町に古くから受けつがれている行事や，昔の道具，くらしの様子について調べてわかったことを発表し合いました。

まとめ

1　上富良野町には，昔からつづく行事があり，今も大切に受けつがれている。

2　古くからくらしにのこる道具があり，人々の生活の変化とともに，道具も変わってきている。

わたしたちの町を，もっとよくするためにみんなで何ができるのかを話し合ってみましょう。

こんな上富良野にしたい！

4 安全なくらし

ウーウーウーと音をたて，赤い光を点めつさせながら走っていくパトカーや，サイレンを鳴らして火事の現場に向かう消防車を見たことがありますか。

わたしたちの町では，交通事故や火事などから，わたしたちの生命や財産など，くらしを守るために，町の人々がどのような工夫や努力をしているのか，これから調べてみましょう

めあて

1　学校や町の消防施設は，どのようになっているでしょう。
2　火事を防ぐための仕組みは，どのようになっているでしょう。
3　火事を防ぐために，どのような工夫がされているでしょう。
4　交通事故を防ぐためにどんな施設があるのでしょう。
5　交通事故を防ぐために，どのような努力がされているでしょう。
6　警察官はどのような仕事をしているでしょう。
7　自然災害を防ぐための施設は，どのようになっているでしょう。
8　自然災害を防ぐために，どのような努力がされているでしょう。

(1)火事を防ぐ

学校の消防施設調べ

わたしたちの身のまわりで火を消すための消防施設にどんなものがあるか，調べてみましょう。

学校の中をよく見ていくと，ふだんは気がつかない所に，たくさんの消防施設があることがわかります。

消防施設配置図(はいちず)つくり

調べた消防施設を，学校の地図に書き入れて，消防施設の配置図をつくってみましょう。

【調べること】

・学校には，どこに，どのような消防施設があるのだろう。

【調べ方】

①学校の見取り図を準備する。

②分たんして，消防施設をさがす。

③消防施設を見つけたら，見取り図に書き入れる。

④見取り図を見合わせて，一つにまとめる。

⑤消防施設が，その場所にあるわけを考える。

⑥先生に，火事を防(ふせ)ぐための工夫について，話をしていただく。

まとめ

・火事を知らせるもの，火事を消すもの，火事が広がるのを防ぐもの，命を助けるものなど，たくさんの消防施設がある

・学校の消防施設は，その役割をよく考えてつけられている。

・学校では，ひなん訓練をして，火事が起きたときに備えている。

上富良野町の消防施設調べ

わたしたちの町や身のまわりには，どんな消防施設があり，また，どこにあるか調べてみましょう。

【調べること】

・どこに，どんな消防施設があるのだろう。

【調べ方】

①地域ごとに班で分担して調べる。

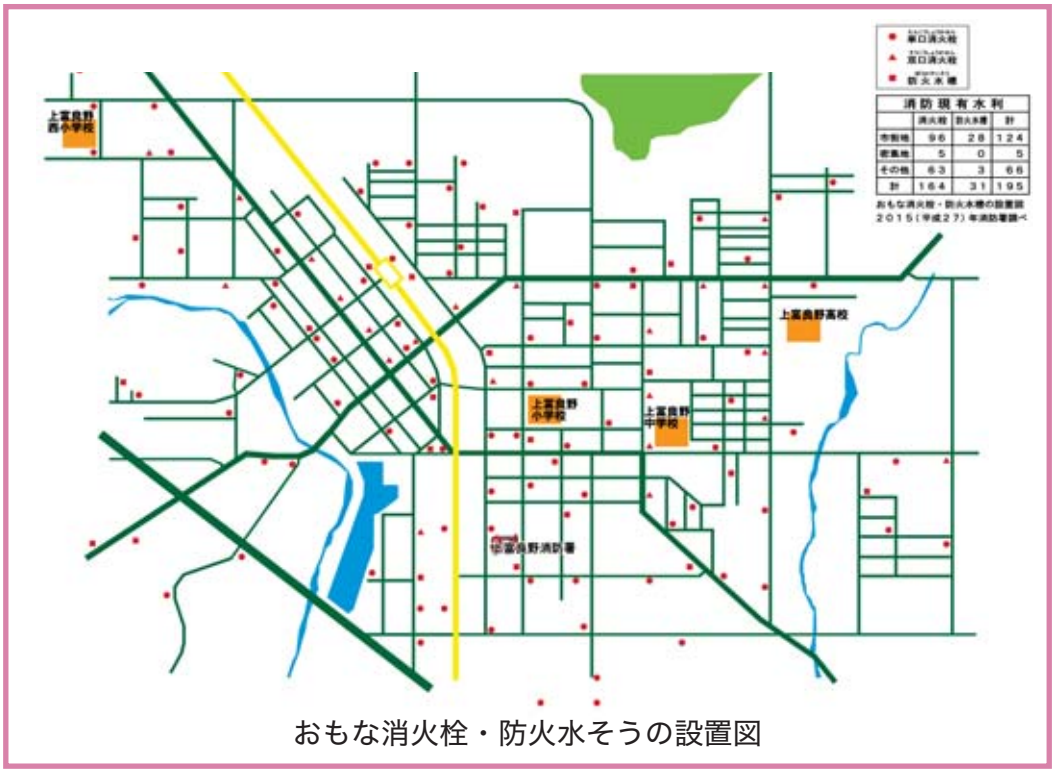
②調べたことを白地図にメモしておき，学校に帰ってからみんなで全体の地図にまとめる。

③わかったことや気がついたことを話し合う。

たんこうしょうかせん
単口消火栓

ぼうか
防火水そう

そうこうしょうかせん
双口消火栓



おもな消火栓・防火水そうの設置図

まとめ

・消火栓や防火水そうは，家のならび方やこみ方，場所によって，計画的におかれています。
・さらに，大きな火事のときや防火水そうのない場所では，自然用水として，川から水をとることもあります。
・消防署の人たちは，定期的に見まわって，いつ火事になっても，すぐ水が使えるようにしています。

消防署の見学

火事を消すしくみ

消防署では，どんな仕事をしているのでしょうか。実際に見学に行って調べてみましょう。

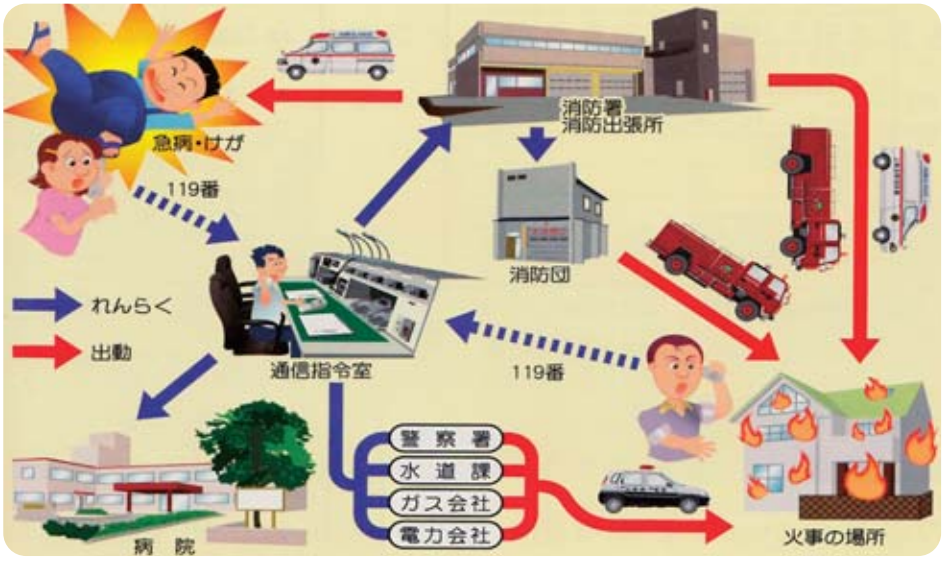
【消防署で調べてくること】

・消防署にはどのようなものがあるのか。
・消防署の人はどのような仕事をしているのか。
・火を早く消すために，どのような工夫をしているのか。
・どのような人と協力して仕事をしているのか。

火事や急病などの知らせは，町内のどこから電話しても，消防署の指令室につながります。知らせを受けた指令室は，すぐに判断して，消防車や救急車を出動させます。中富良野町の中富良野消防署，富良野市の富良野消防署，各消防団や警察署などにも火事の状況に応じて，無線や電話で知らせます。

上富良野消防署

通信司令室の様子



通信指令室からのれんらくのしくみ

知らせを受けた消防署や消防団の人たちは，すばやく火事場に出動します。

また，電気会社やガス会社の人も火事場にかけつけ，消火活動に協力します。

上富良野町の「上富良野消防署」は，富良野市の「富良野消防署，山部出張所」，中富良野町の「中富良野支署」，南富良野町の「南富良野支署」，占冠村の「占冠支署」と，富良野広域連合をつくり，協力し合って消火活動を行っています。大きな火事のときは，近くの町の消防署との協力体制ができています。

消防の対さく

消防署は，火事のときはどこの水を使ってどんな消し方をするか研究や訓練をしているので，火事が起こっても落ちついて行動することができます。また，消防署の人たちは，消火栓や防火水そうなど消防施設がどこにあるのか覚えているので，すばやく消火活動を行うことができます。

そして，警察や役場と協力して，「何時ごろは，どこの道路がこむか。」「どこで，道路工事をしているか。」などくわしく調べて火事の現場にはやく行く作戦を練っています。消防署の人は，いつでも出動できるように，昼も夜も交代でつとめています。

消防署　梅津さんのお話

上富良野町で起こった火災の原因は様々ですが，コンロやストーブ，たばこなどがあげられます。119番の通報を受けたときにすばやく現場にかけつけて火を消すことができるように，消防士は，日ごろから訓練をしています。防火服，マスク，ボンベなどのそうびは重くて大変ですが，いざというときにみなさんを守ることができるように真剣に訓練に取り組んでいます。

火事を防ぐ仕事

消防署は，火事を消すだけでなく，火事を防ぐために，ふだんからいろいろな仕事をしています。

○立ち入りけんさ

火事になると危険なたて物を調べる。

○消火訓練

ホースのつなぎ方や放水の仕方の訓練。

○救助訓練

にげおくれた人やけが人を助け出す訓練。

○火災予防指導

消火器の使い方やひなんの仕方を指導する。

○危険物施設のとりしまり

危険物のとりあつかいについて指導する。

○火災予防運動

火事をおこさないように，町民によびかける。

○防火施設の点けん

消火栓，防火水そう，消防車などの点検。

(2)交通事故を防ぐ

交通安全の施設調べ

わたしたちを交通事故から守るために，学校の近くや町の道路などに，どんな施設があるか，調べてみましょう。また，学校や町では交通事故を防ぐためどんな努力をしているのでしょうか。

【調べること】

・道路にある交通安全のための施設。
・警察と地いきの人が行う，安全なまちづくりのための活動

【調べ方】

・学校のまわりを調べたり，地いきの人に話を聞いたりする。
・警察署や交番に行って，話を聞いたり資料をもらったりする。

近くの交通安全施設

毎日，学校への行き帰りに，歩道を歩きます。信号機のある横断歩道は，必ず白くぬられています。信号機のない所でも道路に印があります。このようによく見ると，安全施設や標識がたくさんあることに気がつくと思います。

安全施設の設置図

調べた安全施設を町の地図に書き入れてみましょう。

【安全マップの作り方】

①危ない場所について考える。

②グループをつくって，身近な地いきを調べよう。

③安全マップをつくろう。

・調べた結果を話し合う。

・もぞう紙に地図をかきこむ。

・安全施設をかきこむ。

・絵をかいたり，写真をはったりする。

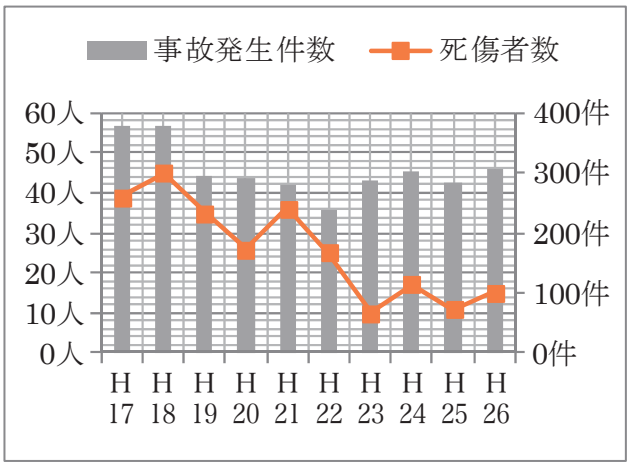
・事故や事件が起こりそうな場所とその理由を書きこむ。

地図にまとめてみると，交通安全施設は，人が多く通るところや旧国道など自動車がたくさん通るところに，つくられていることがわかります。

また，役場や駅そして店などが近くにある道路などに多くの交通安全施設があり，わたしたちが少しでも安全な状況で行き来できるように工夫されています。

交通事故がふえないように，国や北海道でも真けんにとりくんでいます。

交通事故を防ぐ努力



交通事故発生件数（上富良野）

毎日のように交通事故のニュースが，わたしたちの耳に入ってきます。

また，事故のため死んだ人やけがをした人も多く出て，悲しい思いをしている人がおおぜいいます。

事故の原因は，車のスピードの出しすぎやわき見運転，歩行者の道路への急なとび出しなど，いろいろあります。

みなさんの中には，交通事故にあった人やあいそうになった人がいませんか。そこで，わたしたちの学校や町では交通事故を防ぐためどんな努力をしているか調べてみましょう。

わたしたちの学校

４月，新学期をむかえたわたしたちは，学校までの道路を，新入生といっしょに，安全を確かめながら登校しています。

朝の登校時の交通教育指導風景

また，先生やＰＴＡの方たちも協力して交通事故を起こさないように街頭指導をしています。

学校では，雪がとけて，自転車に乗れるようになると交通安全青空教室をグラウンドなどで行います。

そのときは，町の交通安全協会の人や交通指導員，警察の方などが来て，信号機の見方や横断歩道のわたり方など親切に教えてくれます。

わたしたちは，自転車の点けんなど，いつも交通事故にあわないように心がけることが大切です。

交　番

警察官の一日

わたしたちの安全を守るため，警察官がいます。交番をたずねていろいろ聞いてみました。

○毎日，町のようすを富良野警察署に報告します。

○机の上には，電話が３つあります。その２つは，他の警察などと連らくをとりあうための専用電話になっています。

○パトロールをする時は，かならず無線機をパトカーにつんで，出かけます。

○パトロールをする時は，交通標識・安全施設などを見回ります。

○町民からの相談や，届け出の仕事をすることもあります。そのほか，一人ぐらしのお年寄りに気をくばるなど，わたしたちの安全を守るためいつもたくさんの仕事をしています。

(3)自然災害を防ぐ

十勝岳噴火と災害

今まで３回（大正15年・昭和37年・昭和63年）の十勝岳噴火では，多くの人たちの尊い命がうばわれ，町にはたいへんな被害が残りました。火山のまわりには，たくさんの火山灰がふりつもり，木が少なく，土や石がむき出しになっているところが多いため，火山が噴火すると，泥流という災害が起こりやすいのです。この泥流をくいとめるために，上富良野町ではいろいろな砂防施設を作り，ふもとの人々の生活を守っています。

透過型ダム

また，十勝岳の噴火災害が発生した総合防災訓練を毎年行っています。この訓練を通して，防災についての意識を高めたり，いざという時のひなんのしかたを確かめあったりしています。

十勝岳総合防災訓練

自衛隊の災害救助・支援

東日本大震災の給食支援の様子

自衛隊は，国の安全と平和を守るなどの仕事をしています。その一つとして，災害から私たちの安全な暮らしを守っています。これまでにも十勝岳噴火への対応や洪水等の災害時に町民の生命などを守るためにすばやく出動し，多くの隊員や大型機材による災害救助活動をしてきました。

平成23年3月11日の東日本大震災には，上富良野駐屯地から約1,000名の隊員が長期間（4ヵ月）にわたって不明者の捜索や被災された方々の生活支援などの活動をしました。

東日本大震災の給水支援の様子

学習のまとめ

「安全なくらし」を学習して，わかったことや考えたこと，調べたことなどをまとめてみましょう。

まとめ

1　学校や地域の消防施設を調べてみると，いろいろな役目をもった消防施設が計画的に配置されていることがわかりました。

2　消防署では，火事を防いだり，火事を消したりするためだけでなく，他にも仕事をしていることがわかりました。

3　火事を防ぐためには，消防署ばかりでなく，警察署や役場などのはたらきが大切なことがわかりました。

4　交通安全しせつの設置図をみると，学校，駅，店など人や自動車が多く通るところに，計画的に設置されていることがわかりました。

5　交通事故を防ぐために，交通安全協会の指導員の方々やＰＴＡの人々の街頭指導の協力があることがわかりました。

6　警察官の仕事は，交通標識，安全施設など町のようすを見回って富良野警察署に毎日報告していることがわかりました。また，町民からの相談にのったり老人に気をくばったりするなど，いつも，わたしたちのくらしを守ってくれていることもわかりました。

7　自衛隊の隊員は，災害から私たちの安全な暮らしを守ってくれることがわかりました。

8　十勝岳噴火による泥流を防ぐために，たくさんの砂防施設を作り，わたしたちの生活を守っていることがわかりました。

新聞にまとめよう

町の人々のくらしを守る人たちの仕事を学習して，自分たちにもできることはないか，話し合いました。そこで，新聞をつくり，警察署や消防署の仕事のしょうかいや，安全にくらす方法についてまとめ，地いきの人々に知らせることにしました。

【新聞づくりのポイント】

・安全に生活するために働く人々について，調べたことを書こう。

・調べたときにとった写真や書いたメモを使って，新聞にまとめよう。

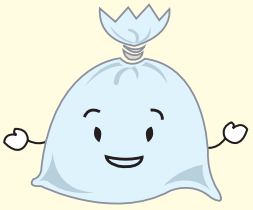
・働く人の工夫や努力についても書こう。

5 健康でゆたかな生活

わたしたちの町では，ごみをどのように処理（しょり）しているでしょうか。また，生活に必要（ひつよう）な水をどのようにえているか調べてみましょう。

めあて

ごみ

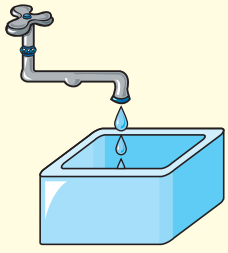


1　家庭や学校からは，どんなごみが出されているでしょう。

2　ごみは，だれが，どこで，どのように処理しているのでしょう。

3　ごみ集めや，ごみのしまつのしかたは，どのように変わってきているでしょう。

水



4　水道の水は，どこからどのようにして送られてくるのでしょう。

5　水道がひかれる前は，水をどのようにえていたでしょう。

6　下水道のしくみは，どのようになっているでしょう。

(1)わたしたちのくらしとごみ

家のごみを調べよう

わたしたちは，毎日の生活の中で，どれぐらいの量のごみを出しているのでしょう。話を進めていくうちに，「学校ではどのようなごみが，出るのだろう。」というぎもんが出され，実さいに調べてみることにしました。

まず，教室の中からどんなごみが出ているか，ごみ箱を調べました。紙くずやえん筆のけずりかすなどがあり，全校ではほかにダンボールの箱や牛にゅうパックなどが出ていることがわかりました。

今度は，自分の家から出るごみの種類と量を調べ，その記録を見ながら話し合いましょう。

【調べること】

・家からどんなごみが出されているのでしょう。

【調べ方】

・記録表をつくる。ごみの種類をたての列に，調べる日を横の列に書く。

・ごみの量は，収集に出したふくろの数を記録する。

家から出たごみの種類(記録表)

	12日(月)	13日(火)	14日(水)	15日(木)	16日(金)	17日(土)	18日(日)
生ゴミ	○	○	○	○	○	○	○
紙くず	○	○	○	○	○	○	○
ビニール	○	○	○	○	○	○	○
かん・ビン		○			○		○
牛乳パック			○			○	○
ペットボトル			○				
ざっし・新聞	○	○	○	○	○	○	○
食品トレイ				○			
プラスチック		○			○		○

〈気づいたこと・ぎもんに思ったこと〉

・生ごみ，紙くず，ビニール，新聞紙は毎日出ている。

・大きなごみは，どのようにしてごみの収集(しゅう)に出すのだろう。

先生が，「みなさんの家で出るごみは，どのようにしまつしているのでしょうか。」とたずねられました。

そうすると，「自分の家でしまつする。」とか，「家の近くのごみ収集所またはごみステーションに出しておく。」などの意見が出されました。

わたしたちは，町のごみについて，「どのように集められ，どのように処理(しょり)されているのか。」もっとくわしく調べてみることにしました。

ごみの収集カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2 一般ごみ	3 生ごみ
4	5 紙類	6 プラスチック類	7 生ごみ	8 ペットボトル	9 一般ごみ	10 生ごみ
11	12 空き缶	13 プラスチック類	14 生ごみ	15 空き瓶	16 一般ごみ	17 生ごみ
18	19 不燃ごみ	20 プラスチック類	21 生ごみ	22 ペットボトル	23 一般ごみ	24 生ごみ
25	26	27 プラスチック類	28 生ごみ	29	30 一般ごみ	31 生ごみ

みなさんは，前のページのようなカレンダーを見たことがありますか。町では，どうしてこのようなカレンダーをつくっているのでしょうか。

自分の予想や考えを書こう。

ごみの収集（しゅうしゅう）カレンダーが作られたのは，ごみの集め方や処理（しょり）の仕方とかんけいがあるのではないでしょうか。ごみ集めや，ごみのしまつの仕方の変化（へんか）とともに，ごみのゆくえをおっていくことにしました。

(2)町をきれいに

ごみ集めが行われる前

昔は，ごみがたまると家のまわりにあなをほってうめたり，燃（も）やしたり，川に流したりしていました。しかし，いやなにおいがしたり，火のついた紙がとんだり，川がよごれたりするのでもんだいになっていました。

そこで，市がい地の人たちが，自分の町をきれいにするために，みんなで相談して，1956（昭和31）年に町内会連合（れんごう）えい生（せい）部をつくって馬車で市がい地のごみ集めをしていました。

町でごみ集め

町の人たちばかりでなく，町役場でも，町をきれいにするために，ごみ集めのことをしんけんにとり上げるようになりました。そして，1961（昭和36）年から，町役場が町内会に貸しあたえた小型トラックが町の中を走って，ごみ集めを行うようになりました。

しかし，町の人たちの生活がゆたかになってくると，ごみもふえて集めきれなくなってきました。そこで，1965（昭和40）年ごろ，町役場が中心となって，上富良野町公しゅうえい生組合をつくり，ごみ集めをすることになりました。

その後，工場や商店など，いろいろな仕事をするところがふえてくるにつれて，そこから出るごみの量も多くなってきました。そこで，町ではごみ集めの自動車を買ったり，ごみの後しまつのきまりやごみの集め方を考えたりするなど，町全体できれいな町づくりをするようにしました。

はじめは，燃えるごみと燃えないごみをいっしょに集めていましたが，1996（平成8年）から燃えるごみと燃えないごみを分けて集めるようになりました。

町内全域で，紙くずや布類などの燃えるごみとプラスチックごみは，週１回ごみ収集車で集めにきます。

ごみ収集車の様子

市がい地を中心に生ごみは週２回，ペットボトルは月２回，金ぞくるいやゴム・皮るいなどの燃えないごみは，月１回集めにきます。ごみ収集車で集められない家具や電化製品などの大きなごみは，直接家までトラックで集めにきます。

また，電化製品によっては処分の方法がことなるものもあります。これとは別に，ジュースやビールなどの空きビンや空きかんを月１回集めています。

上富良野町指定ごみ袋

かみふらの町　ごみの分別

1. 燃えるごみ

紙類、草・花やくき類、えだ木類、よごれた布類・衣服、紙おむつ、木製品、よごれた容器プラスチック類…など

2. 燃えないごみ

金属類、ガラス・コップ・お茶わん、ゴム製品、革製品、プラスチック類、スプレー缶…など

3. 容器包装プラスチック類（資源ごみ）

商品を包んでいたプラスチック類、お菓子のふくろ、かんしょう材、プラマークがついているものが対象

4. 空きびん・空き缶（資源ゴミ）

食べものや飲みものが入っていた缶・びん。化粧品のびんなども対象

中をすすぎ、汚れをおとす

5. ペットボトル（資源ごみ）

ペットボトルのマークが入っているボトル

6. 紙類（資源ごみ）

新聞紙、段ボール、雑誌類、紙パック

牛乳・ジュースなどマークがあるもの

7. 生ごみ（資源ごみ）

家庭の台所から出る「口に入るもの」が対象。草・花などは「燃えるごみ」

8. 乾電池、けいこう灯、電球

じゅうでん式乾電池以外のもの、体温計も対象

9. 粗大ごみ

指定ふくろに入らない大きなごみ
ソファ、タンス、じてんしゃなど

10. 小がた電子機器（資源ごみ）

家電リサイクル対象品（テレビ、冷ぞう庫、洗たく機、かんそう機、エアコン）以外のもので、指定ふくろに入る大きさのもの

回収できるもの・・・けいたい電話、パソコン、電話機、電子レンジ、CD・DVDプレイヤー、ゲーム機（ゲームソフトは「燃えないごみ」）…など
回収できないもの・・・ビデオテープ、CD・DVDなどの記録するもの、充電式電池、家電リサイクル対象品、危険物が入っているもの…など

11. 布類（資源ごみ）

布製品や汚れていない服などが対象。
回収できるもの・・・Tシャツや洋服などの衣類、タオル類、ふとんカバー、シーツ、マフラー、ぼうし、てぶくろ、Gパン…など
回収できないもの・・・ふとん、ベットマット、カーテン、じゅうたん、玄関マット、ぬれていたり、汚れている服類…など

12. はい食用油（資源ごみ）

家庭で食用に使った油（サラダ油、ごま油、オリーブオイルなどの食用油）
機械油や動物性油（バター、ラードなど）、ドレッシングなど油以外のものが混ざっているものは、回収できません。

地球のために正しい分別

ごみの処理

分別して出され，収集されたごみは，どのようにして処理されるのでしょうか。実際にクリーンセンターに見学に行って調べてみましょう。

【調べること】

・クリーンセンターでのごみの処理のしかた
・クリーンセンターでのごみの再利用のしかた

【調べ方】

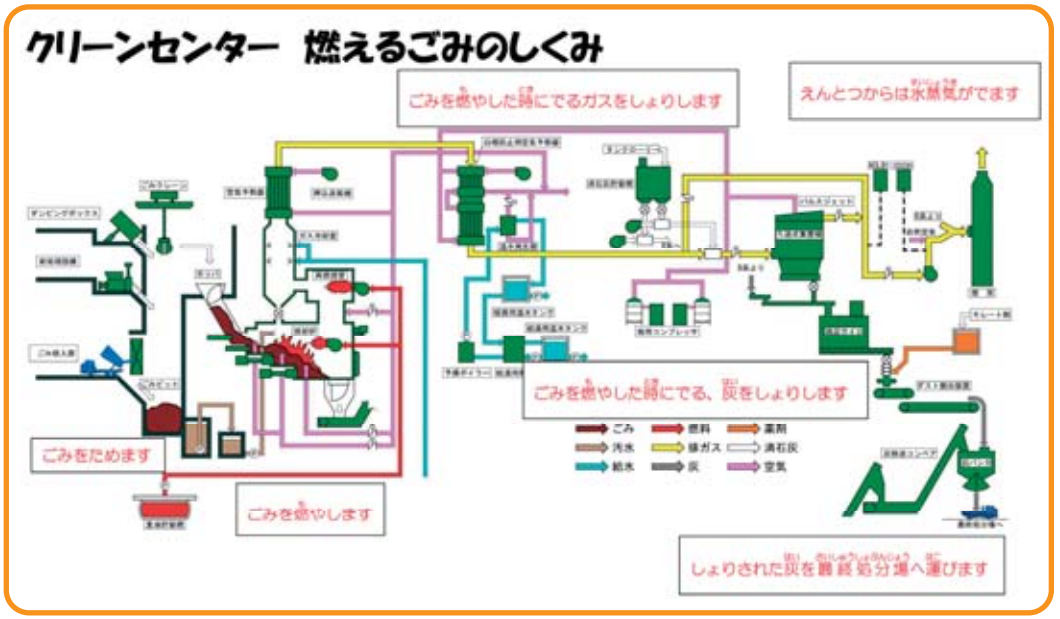
・クリーンセンターを見学して，見たことや聞いたことをメモする。
・クリーンセンターからパンフレットをもらったり，インターネットで調べたりする。

【まとめ方】

・ごみについて調べたことをカードにまとめ，友だちに発表する。

ごみの処理には，焼却方式とうめ立て方式があります。焼却方式というのは，ごみを焼いてしまう処理の仕方です。

現在，町では，うめ立て方式と焼却方式の両方を行っています。うめ立て方式は低い土地にごみを入れて土をかける方法で，これまで東中処分場にうめ立てていました。しかし，そこでうめ立てることができるごみの量も



あとわずかとなり，1996（平成8）年に新しく日新処分場が作られました。

中央制御室

そして，1999（平成11）年からは，クリーンセンターができたので，燃えるごみは焼却方式で処理し，燃えないごみはうめ立て方式で処理しています。

クリーンセンター

また，資源ごみとして集めた空きビンや空きかん，ペットボトルなどは，ごみをへらし，資源を有効に利用するため業者により再生処理さ

れ，再利用されています。

クリーンセンターは，大きく「焼却施設」と「リサイクル施設」に分かれています。全てのゴミ処理をコンピューターで動かしています。

一人一人がしっかりと分別しよう

2002（平成14）年10月からごみの有料化が始まり，「ごみを少なくしよう」という町民の思いはより高まりました。2003（平成15）年からのごみの量が減りました。「リデュース（ごみを減らす）・リユース（再利用する）・リサイクル（再生利用する）」の「３Ｒ」運動がさかんになったことや，地球温暖化などの環境問題への関心が高まってきたことと大きくかかわっています。その一方で，分別方法がむずかしいため完全にできているとは言えない状況です。一人一人がしっかりきまりをまもってごみを出そうとする気持ちが大切です。

町では，右のような分別の手引きを作成したり，広報などにごみ分別の話題をのせたりしています。

近くの町が協力して

数年前までは，それぞれの町で出されたごみは，それぞれの町で処理していました。しかし，ごみの処理には，多くのお金がかかることや各市町村の施設を有効に利用する目的から，富良野沿線５市町村（上富良野町・富良野市・中富良野町・南富良野町・占冠村）が協力して行うことになりました。

たとえば，生ごみは，富良野市の富良野地区環境衛生センターに集められたり，プラスチックごみは中富良野町の富良野生活圏資源回収センターで処理されたりしています。そして，富良野地区環境衛生センターに集められた生ごみは，堆肥に再生利用されています。

【まとめ方】

① 学習した内容の中から，それぞれのたんとうを決める。

② わかったことや考えたことをカードにまとめる。

まとめカード例（しげん物やそ大ごみの再利用）

○わかったこと

分別して収集されたごみはすべてもやされるのではなく，再利用もされていることがわかりました。

○考えたこと

まだ使えそうなものが，そ大ごみとして捨てられていたのを見て，ものを大切に使うことが大切だと思いました。

(3)くらしと水

水のじゅんかんについて考える

みなさんの家や学校では，じゃ口から，夏でもつめたいきれいな水が，いきおいよく出る水道がひかれていると思います。水道の水は，どこからどのようにして送られてくるのでしょうか。使う水の変化(へんか)とともに調べてみましょう。

【調べること】
- わたしたちが使う水がどこから送られてくるか。
- 水はどこでどのようにきれいにされているか。

【調べ方】
- じょう水場やじょう化センターに見学に行って調べる。

【まとめ方】
- 水が送られてくる流れを図にまとめる。

上富良野町の水道水

水道ができる前の町の人々は，地下水を手おしポンプでくみ上げたり，川の水を使ったりして生活していました。しかし，飲んだり，洗たくをしたりすることのできる水が不足(ふそく)していました。そのため，人々は，どうにか

してよい水がほしいと願っていました。町の人口が多くなり，日照(ひで)りがつづいたりすると，水が不足して出なくなるなど，人々は水にはいつも苦労していました。そこで，きれいな水がいつでも使える水道がほしいという願いが大きくなりました。

町役場では，1970（昭和45）年ごろから水道の工事をはじめ，3年がかりで，1973（昭和48）年12月に「日の出じょう水場」が完成しました。その後，水を使う量(りょう)が増えて「日の出じょう水場」の水だけでは足りなくなり，1992（平成(へいせい)４）年に「倍本(ばいほん)じょう水場」が完成しました。

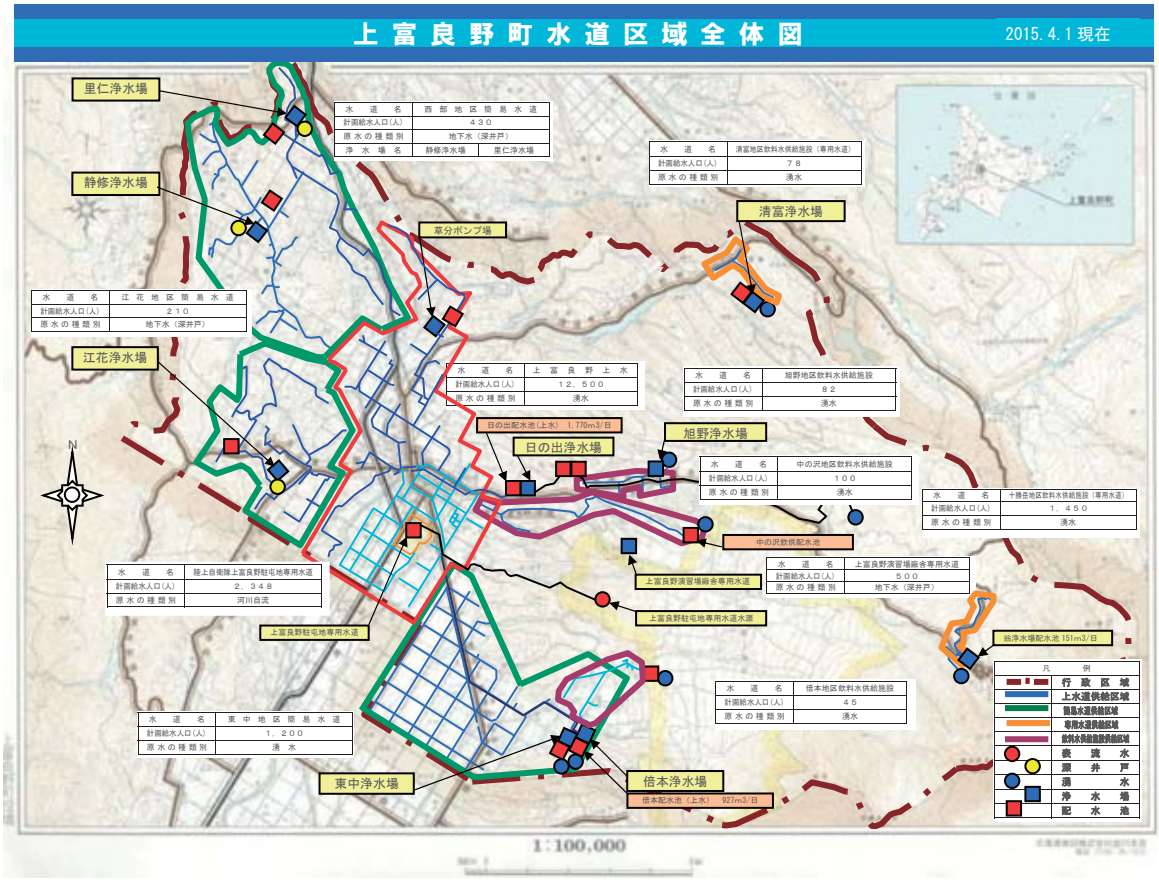
町の人たちは，安心して水が使えるようになりました。この水道は，すべてわき水でまかなわれています。市がい地の家庭のおよそ4,200戸で使われています。

また，東中では，昔から土地がやわらかく水分が多いため，雨がつづくと水がにごってしまい，人々はこまっていました。

そこで，人々の願いにより，町では，1978（昭和53）年にかんい水道の工事をはじめ，1980（昭和55）年１月

に「東中じょう水場」が完成しました。

また，2003（平成15）年11月には，清富（きよとみ）にもじょう水場が完成しました。

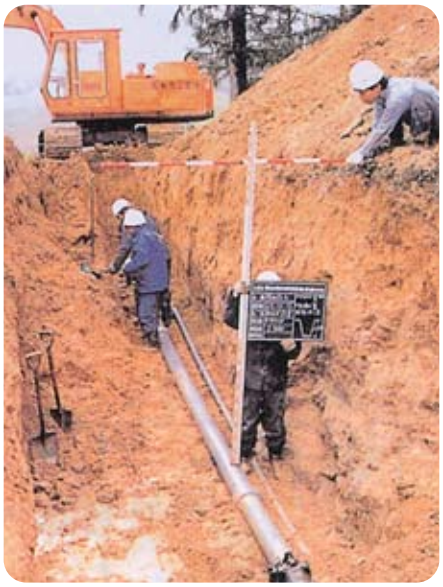


(4)下水道

町では，町の人々の生活がさらに清潔で住み良くなるようにと，1982（昭和57）年から下水道工事をはじめ，1991（平成３）年７月にじょう化センターが完成したことで，下水道を利用できるようになりました。

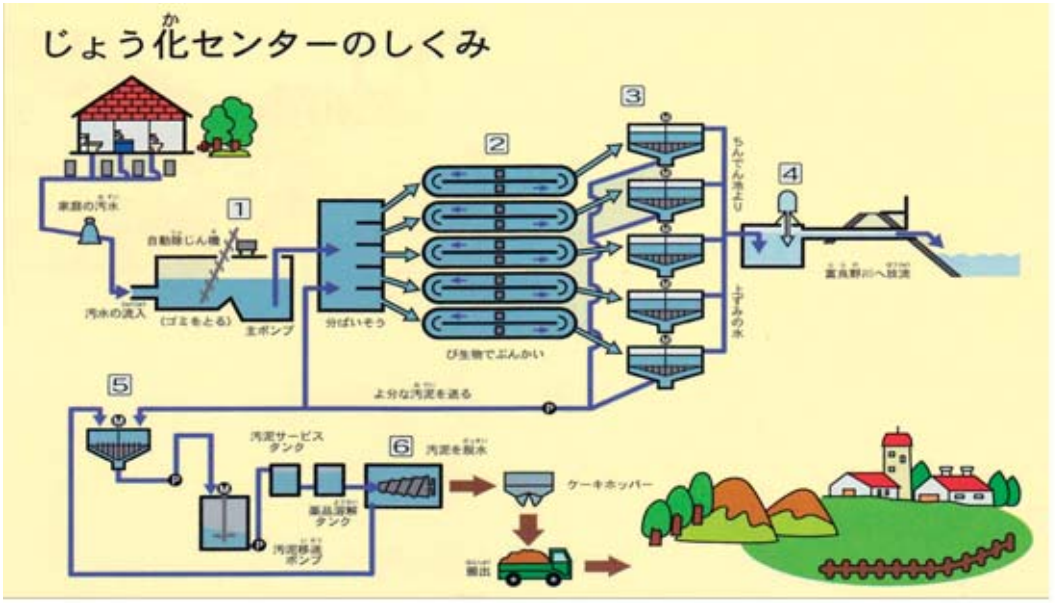
そして，毎年水洗トイレの工事が進められ，2010（平成22）年３月までに上富良野の約66パーセントの人数にあたる7,855人（3,790世帯）が水洗トイレを使っています。

じょう化センターを見学すると，センターのまわりには，ラベンダー畑やきれいな花だんがあります。

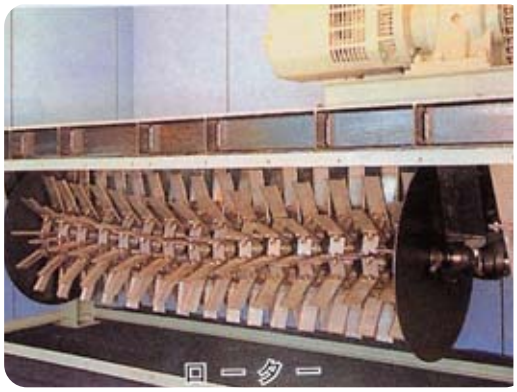


水道工事の様子

じょう化センター全景



まず，家庭から出された汚水は，パイプを通り，1のタンクでごみや土を取ります。分ばいそうを通った汚水は，2の「オキシデーションディッチ」で，ローターを回転させ，さんそを送り，び生物の助けをかりて，よごれをしずみやすくします。



次に，3の「ちんでん池」に送られた汚水は上ずみのきれいな水と汚泥に分かれ，上ずみの水は消毒され，富良野川へ流されます。

残った汚泥は5の「のうしゅくタンク」へ送られ，のうしゅくして量をへらされ，脱水・消毒され，トラックで場外へ運び出されます。運び出された汚泥は，肥料になります。

じょう化センターは，長い年月をかけてつくった，大きな下水道施設です。健康でゆたかな生活をするため，わたしたちは，正しい使い方をしなければなりません。

学習のまとめ

「健康でゆたかな生活」を学習して，わかったことや考えたこと，調べたことなどをまとめてみましょう。

まとめ

1　わたしたちは，くらしの中でたくさんのごみを出しています。それをごみの種類によって分別してごみ収集車で集め，うめ立て方式と焼却方式の両方で処理をしていることがわかりました。

2　ごみをへらし，資源を有効に利用するため，きまりを守ってごみの分別に協力しなくてはならないことを考えました。

3　ごみは，近くの市町村が協力して処理していることもわかりました。

4　くらしにどうしても必要なのが，水です。上富良野町では，むかしから水にとても苦労してきました。そこで，きれいな水がいつまでも使えるように水道をひこうという町の人たちのねがいから，わたしたちが使っている水道ができたのです。水道ができてから，わたしたちのくらしがとても便利になりました。

5　下水道は，清潔なくらしをするうえで，とても大切なものです。そのために，長い年月と，大きな設備が必要だったことがわかりました。

6 上富良野の歴史(れきし)といせき，自然

開たく当時の上富良野は大きな木やささやぶでおおわれ，西も東もわからないくらいでした。そこを，木を切りたおし，畑にすることからはじめ，今では，りっぱな町としてはってんしてきました。

そのと中には，十勝岳の噴火(ふんか)などの災害にも見まわれましたが，多くの人が協力をしてのりこえてきました。

上富良野の町がどのように開拓されたのか，また，災害をどのようにのりこえたのか調べてみましょう。そしてこれからの上富良野について考えてみましょう。

めあて

1　上富良野の開たくの様子や仕事はどのようにかわってきたのか調べてみましょう。

2　十勝岳の噴火の様子や災害をどのようにのりこえてきたのか調べてみましょう。

3　上富良野にあるいせきや残されている自然について考えてみましょう。

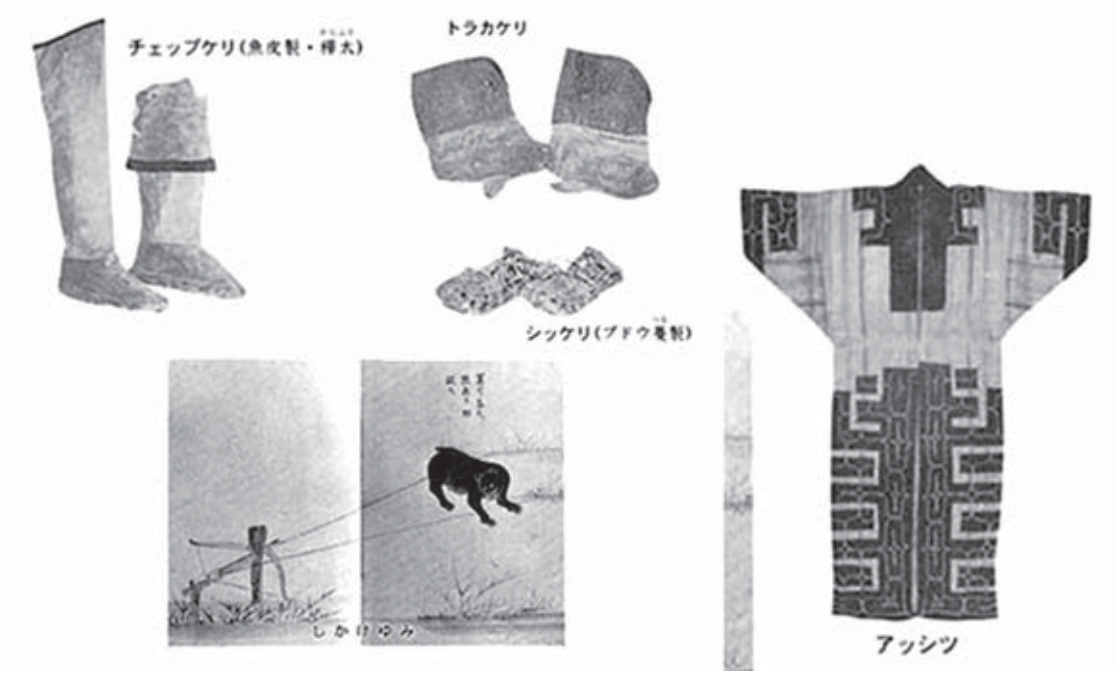
(1)昔の上富良野

地名の誕生(たんじょう)

富良野という地名は，アイヌ語のフラ・ヌ・イ（(い)黄(おう)のにおいのする川」という意味）がもとの言葉で，それに富良野という漢字をあてはめて市や町の名としました。もともとは富良野川から上の空知川(そらちがわ)上流部を富良野といいましたが，そのあといろいろかわって，上富良野・中富良野・富良野・南富良野に分かれました。

アイヌの人々のくらし

アイヌの人たちは，今の北海道をアイヌモシリ（アイヌのしずかな国土）とよび，コタン（村）をつくり，自然とともにくらしていました。そのころのアイヌの人たちは，山ではクマやシカを，海ではアザラシや貝を，川ではサケやマスをとって生活していました。そのほかに，鳥やうさぎなどもとっていました。女の人たちは，山で山菜(さんさい)やキノコをとったり，家で機(はた)をおったり，食事のしたくをしたりしていました。



上川地方－十勝地方への道

いつごろからあったのかはわかりませんが，むかし，上川地方（今の旭川方面）から，今の上富良野を通って，十勝地方（新得）へぬけるふみ分け道があったそうです。

北海道たんけんのために，松浦武四郎（「北海道」の名付け親）が，１８５８（安政５）年３月に，石狩につとめていた役人と上川のアイヌの長の一人，クーチンコロら１２人のアイヌの案内人といっしょに，上川から上富良野を通って富良野岳の近くで山ごえをし，サホロ川へ出て今の新得にむかったということです。

にれの木の下で

今から，120年ほど前に田中常次郎一行が歌志内から空知川をさかのぼって富良野に出て，さらに富良野川をさかのぼって，今の草分に入りました。これが，わたしたちの町の開たくの始まりです。

はじめ，田中常次郎さんを先頭に８人の人たちは，辺り一面大きな木におおわれ，道らしい道もない中を，上富良野の地，富良野原野をめざして，がんばりました。

「見えたぞ，広い原野だ。けむりも見えるぞ。」

「あれだ，見えるぞ，十勝岳だ。」

元気がでた人たちは，空知川から富良野川を上流にむかって進んで行きました。

川に足をとられたり，木を切りたおし橋をつくったりしながら，1897（明治30）年4月12日に，上富良野村西３線北29号の175番地にたどり着きました。

にれの木の下での様子

このへんは，木が少なく広々とした一面の原野で，かんそうしていました。原

野のまん中ににれの木が１本立っていました。

８人の人たちは，この木の下で野じゅくすることにしました。(後に，にれの木があった場所には「慰の楡」ときざんだ記念碑がたてられました。)

慰の楡記念碑

はるか東の空には，雪景色の十勝岳が，原始林の上にそびえて，けむりをあげているのがよく見えました。

いこいのにれの下で野じゅくをして，初めて現地のしさつをおえた田中常次郎さんたちは，旭川まわりで家族を連れてきて，本かくてきな開たくを始めました。開たくの第一歩は，木を切りたおすことから始まりました。りっぱなのこもなく，開こんするにも人力にたよらなければならなかったので，開たくは思うように進みませんでした。

木を切るためののこ

また，開こんした土地から，すぐにはしゅうかくがないため，食

料はすべて買って食べなければならず，さいしょのころは，旭川まで買いに行きました。

しかし，米は高くてなかなか買えず，いなきび・あわが日じょうの食べ物でした。

さいしょにたてられた家は，「合しょう小屋」または「おがみ小屋」といいました。

地面に三角形の屋根をおいたような形をしており，屋根は木の皮やかれ草をかけ，入口はむしろをさげただけで戸がありませんでした。

ですから，きつねが入ってきて，ねているのを知らずにしっぽをふみつけて，かみつかれたこともあったということです。

開拓当時の住まい

このように，本州からきた人たちにとって北国の生活は，たいへんきびしいものでした。

米づくり

すき

稲が，いちばん先につくられた国は，インドやインドネシアなどと言われています。どの国にしても，稲があたたかいところにあう作物であることは，まちがいありません。

日本では，北海道をのぞいて，古くから米づくりが行われてきました。

1900(明治33)年，田中常次郎さんと山口五平さんが，初めて稲づくりをしました。米づくりには，水が必要なので，水田がつくられたのは，富良野川のそばです。しかし，富良野地方は，むかしから，寒さのきびしいところとして知られていました。夏でもはだ寒い日があり，それが何日もつづくと，冷害となって，作物がとれなくなり，食べ物がなくなって，ずいぶんつらい思いをしたこともあったようです。

「米づくりは，北海道にあわない。」

という意見があって稲作禁止令まで出されたこともありました。

それでも，開たく者たちは，米づくりに全力をあげ，とちゅうで投げ出してしまうことはありませんでした。寒さに負けない稲のつくり方を考えたり，よい水田にするために，新しい土を運び入れたり，ひりょうをまいたりするなどの苦労が実って，今のような見事な水田がつくられたのです。

開たく者たちの血のにじむような努力の積み重ねによって，成功した米づくりは，言いかえると，100年以上にわたる寒さとのたたかいといえます。

たこ足

稲の植え方も，ずいぶんかわってきました。むかしは，「たこ足」というもみまき機をつかって，水田にちょくせつもみをまきましたが，今ではビニールハウスを使用したり，品種改良などをすることによって，なえを早く，じょうぶに育てることができる

千　歯

ようになりました。

また，農作業も，ずいぶん楽になってきました。開たく当時は，人力だけがたよりでしたが，しだいに牛や馬による農耕をとり入れ，プラウ・ハローなどの馬耕農具を使うようになりました。

プラウ

方形ハロー

大正時代の末ごろになると，動力が水車や風車にかわり，石油による発動機が使われるようになると，作業はどんどんスピードアップされてきました。

農機具も人々の苦労とくふうでどんどん便利になっていきました。

鉄道がしかれる

道路も鉄道もなかったころは，草や木を切りはらっただけの道でした。人々は，その道を，荷物を馬のせなか

の「駄(だ)くら」に乗せて運んだものでした。

それが，上富良野にも鉄道がしかれる予定になり，人々は，鉄道をしく位置(いち)や停車(ていしゃ)ができる場所（駅）に，強いかん心をもちました。

うんぱんの様子

はじめ，駅の予定地として，草分(くさわけ)・東中(ひがしなか)などがあがっていました。草分(くさわけ)は，西２線北27号という話があったために，開たくの中心は，自然にこのあたりに集まり，店・寺・学校・木工場などができました。

東中でも，東９線北17号が予定地となっていたので，人々は，ここに市がいができるだろうと思って，たくさん入ってきました。

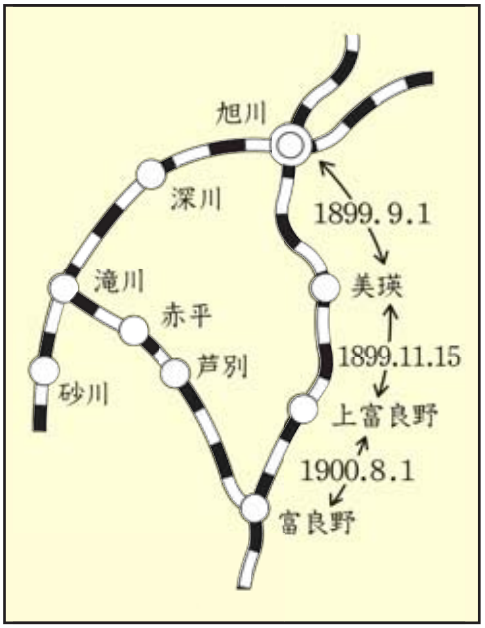
上富良野に，初(はじ)めて鉄道がしかれたのは，1899（明治32）年11月のことです。

工事は，旭川(あさひかわ)の方から進められてきました。大きな木がおいしげるところを切りひらいたり，あぶないめにあったりしながら，線路をしいてきました。

鉄道をしき，北海道を早く開発しようと考えていた役

所の人たちは，人集めに困りました。このころ，道路工事や鉄道工事をするおもな人たちは，しゅう人でした。

しかし，この人たちだけでは間に合わないので，本州から仕事をさがしにきた人たちを集めて働かせました。



鉄道工事の進み方

しゅう人たちは，いっしょうけんめい働きましたが，まだ足りないといって，ムチでたたかれたり，けられたり，馬や牛のようにして働かされました。

にげだす人もたくさんいましたが，つかまってたたかれたり，スコップでなぐられたりしながら，また働かされました。また，山の中で，空ふくのため死んだ人もいました。

この人たちの間では，「まくら木一本，土工一人」という歌が歌われたそうで，すごくつらい仕事だったことが，よくわかります。

開たく者たちも，開こんを始めてから，しゅうかくで

きるまで，３年間もかかったので，修理工事に出て働かなければなりませんでした。

このように，長い年月，血とあせを流した土工夫たちの仕事で，道路ができ，鉄道が開通しました。

駅ができると，駅を中心にして，人々が集まり，家がたち，いろいろな施設がつくられ，町がかたちづくられてきたのです。

開発当時の上富良野駅

鉄道がしかれ，およそ30年後，1929（昭和３）年４月に，上富良野で初めてバスが走るようになりました。

その当時は，上富良野市がい～東中間と江幌完別～吹上温泉間をかしきり運転しました。

現在の上富良野駅

（2）災害にうちかった開拓だましい

そうなん記念碑を見て

遭難記念碑～明憲寺～

町の明憲寺の境内に，そうなん記念碑があります。記念碑の台石には，たくさんの人の名前が刻みこまれています。おじいさんの話によると，この人たちは大正15年の十勝岳噴火によってなくなった人たちだそうです。

お寺の方が，「噴火の記念碑は，草分にもあるよ。」と言われたので，友だちといっしょに見に行きました。

記念碑は，大きな石の上に建っていました。この石は，噴火の時，山から泥といっしょに流されてきたものだそうです。わたしたちは，「こんな大きな石が流されてきたのだから，このふ近の土地は，きっと泥や石でうずまったにちがいない。」と話し合いました。

でも，この記念碑の建っているあたりは田畑が一面に広がっていて，そんなあとは見ることもできません。わ

遭難記念碑～草分～

たしたちは，「だれかが，田や畑にできる土地につくり直したのかもしれない。」と思いました。

そこでわたしたちは，十勝岳の噴火によってこの付近の土地の様子は，どのように変わったのか，その後，どのようにして今のような土地になったのか，役場などで出している資料を使って調べることにしました。

十勝岳噴火

1926（大正15）年5月24日，この日は，ときおり小雨がぱらつき，こいきりのため十勝岳は見えませんでした。

上富良野村の三重団体（草分）の人々はぶきみな山なりを耳にしながら，不安な気持ちで水田のしろかきにはげんでいました。正午すぎになると，山なりがいちだんと

大きくなり，まどガラスをゆさぶる地ひびきとともに噴火が起こりました。その後，午後4時17分過ぎに大規模な水じょう気爆発が起こりました。

押しつぶされた家屋と累積された流木

まっ黒な煙と火柱は天高くのぼり，すさまじい音があたりの空気をゆるがしました。それと同時に雪をとかしたものすごい泥水が，３mの高さで，あらゆるものをなぎたおし飲みこみながら，火口から富良野原野までの24kmのきょりを，わずか25分で流れてきたのです。

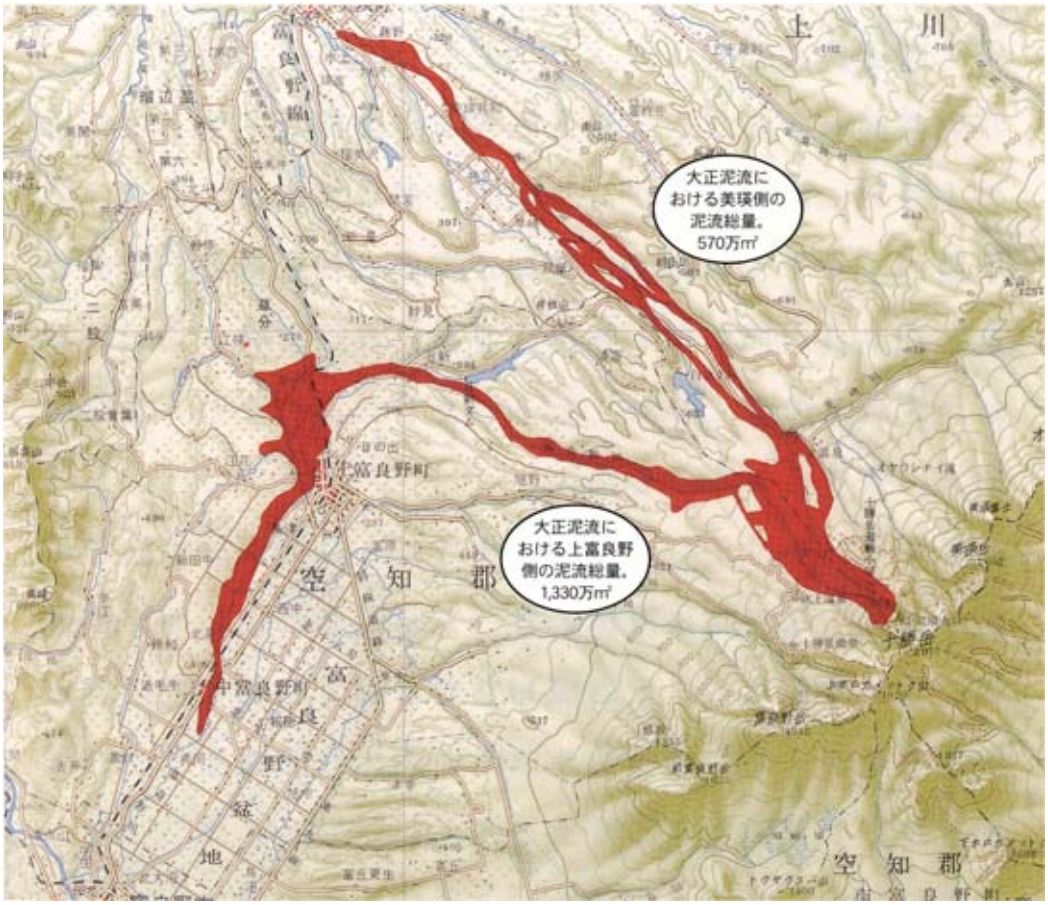
鉄道線路のこわれたようす

大きな木々をおし流し，すさまじいいきおいで富良野川の谷すじにそって流れ下った泥水は，平野に出ると田畑に広がり，鉄道線路をこえ市がい地の近くまできました。

この泥水のために，上富良野・美瑛・中富良野の３町で144人の人がなくなり，466戸の家が流されたり，こわされたりしました。水田は1500ha（ヘクタール）の

うち500haが,畑は4100haのうち225haが泥流にうまりました。とくに上富良野村の被害がもっとも大きく，299戸の家が被害をうけ，137人の人がなくなったり，ゆくえ不明になったりしました。

明治30年に，田中常次郎たちが開拓をはじめてから30年間，血のにじむような苦労をして開いた田畑は，はげしい泥流の中に，いっしゅんであとかたもなくなり，一面泥と岩石と流木にうずめつくされてしまったのです。



大正泥流が流れた範囲

吉田貞次郎

災害が起きたとき，村長の吉田貞次郎は，すぐに役場の人たちに指示しながら，死体さがし，流木のかたづけ，小屋づくりや食べ物の用意など，夜もねむらないで働きました。吉田貞次郎の家も泥にうずめられ，家族７人がはげしい泥流にのみこまれてしまいました。しかし，吉田貞次郎は家に帰りませんでした。

妻や子どもは，やっと助け出されましたが，年をとった母親は，３日目に遺体となって発見されました。母親のそう式のときも，家に帰ったのはわずか30分だけで，悲しみをこらえて被害をうけた人々のために働きつづけました。

二つの意見

災害の後，あれはてた土地を見すてるか，ふっこうさせるかで，村の人たちの意見が分かれました。

見すててしまうという人たちの考えは，「うず高くつもった泥は２ｍから３，４ｍもあり，しかも，鉱毒が強く，とうてい作物は育たない。そのうえ泥にうずまった

流木をとりのぞくにはたくさんのお金がかかる。」ということでした。道庁の考え方もこれと同じでした。

これに対して，ふっこうにさんせいする人たちは，「田も畑も，30年もかかってつくったものである。われわれは，この土地で死ぬつもりでやってきたのだ。鉱毒がどのように多くても，やる気にさえなれば，できないはずはない。もとどおりの美しい田畑に必ずしてみせる。」と必死でうったえました。

吉田貞次郎の決心

吉田貞次郎は，人一倍村を愛する心の強い人でした。土地を見すててしまうことは，どうしてもできないことでした。「十勝岳は，大昔からいく度もこのような被害をあたえ，今まで田畑になっていた所も，以前には鉱毒におかされたことのある土地だったのだ。この土地をすてたのでは，なくなった人たちにもうしわけがない。やれば必ずできる。」とふっこうを決心しました。

6月になって，道庁の人たちが十勝岳の様子を調べに来たとき，吉田貞次郎は，「われわれは，ここを見すてる気持ちはまったくありません。石にかじりついてで

も，もとのような土地にしたいのです。どうか，力をかしてください。」と涙を流してたのみました。

吉田貞次郎の村を愛する熱意は，道庁の人たちの心を動かし，とほうにくれていた村の人たちをふるいたたせました。

ふっこうへの努力

「この土地にふたたび緑をよみがえらせたい。そのために，わたしたちはもう一度開拓をやり直すのだ。」という村の人たちのねがいは，とうとう道庁や国をふっこうへふみ切らせました。土地のふっこうは，ひとりひとりが勝手にやったのではとうていできません。そこで村では，昭和２年に耕地整理組合をつくり，被害をうけた人たちが，協力して仕事をすすめるようにしました。

組合の仕事は，田をつくることから始まりました。田をつくるために，仕事の順序を次のように決めました。

①流木や石をとりのぞく。
②用排水路をほって，土地をかんそうさせる。
③土地をならして田をつくる。
④田に客土をしたり，泥をとりのぞいたりする。

○流木のしまつ

山から泥流でおしながされてきた流木は，あたり一面に散らばっていました。人々はこれを，大のこぎりで２，３mの長さに切り，積み重ねてかんそうさせました。かんそうした流木は，風のない日を待って燃やしました。流木を燃やす火は，毎夜空を赤くそめ３ヵ月にもわたって続きました。

○用水路とちょ水池つくり

押し流されてきた泥は，ほとんど用水路をうずめてしまい，積もった泥は，土地の高さを変えてしまいました。そのため，用水路づくりは，初めからやり直さなくてはなりません。ショベルローダーやブルドーザーのない当時のことですから，うずくまっている岩石や流木をとり除きながら，土をほっていく仕事は，大変な苦労でした。

このようにして用水路ができましたが，山林が

災害で立木が少なくなり，水もちが悪くなったうえに，新しい田の土もちが悪く，自然に流れてくる水だけでは，田に必要な水をまかないきれなくなりました。そこで，村では，道庁におねがいしてちょ水池をつくることにしました。

ちょ水池は，市街地から６kmほどはなれた所につくられましたが，土のせいしつが悪く，難工事でした。いく度も計画のやり直しをしながら，昭和２年から始めて，昭和７年にやっと完成しました。

◯客土工事

災害地をおそった泥は，深い所では1m50cmもあり，しかも作物の育たない鉱毒をふくんでいました。田にするには，この泥を全部とり除くことがいちばんですが，そのためには大変な費用がかかります。そこで，次のような３つの方法で工事をすすめ土地の改良をすることにしました。

ア．泥の深い所の工事

ここでは客土を，泥の上に10cmほどの厚さにまくようにしました。客土は軽便鉄道のレールをしき運搬車を人がおして運びました。つらい仕事でしたが人や馬で運ぶよりは，ずっと便利で，このために工事は思ったよりもはかどりました。

イ．泥が深く，客土をとる場所から遠い所の工事

客土を遠くから運ぶのは，費用もかかるし，大変な仕事でした。それでここでは，泥の下にある土をほり出してまくようにしました。泥は深く客土する面積も広いので，楽な仕事ではありませんでした。

ウ．泥の浅い所の工事

ここでは，おおっている泥をとり除くことにしました。しかし，費用を節約するために，泥を５，６cm残してプラウでたがやし，下の土をまぜるようにしました。客土工事は，人々の必死の努力で，昭和３年に完了しました。

よみがえった田畑

その後も，人々の努力は続きました。鉱毒におかされた土地は，すぐにはもとにもどりません。人々は田に石灰やたい肥をまいて土づくりにはげみました。

人々の努力はむくわれました。以前は10a（アール）当たり400kg以上も取れた米も，噴火後には，わずか60kgとれるか，とれないかというほどになっていました。しかし工事の数年後には，300kgもとれるようになりました。

噴火当時，人々は「開拓をやり直すのだ。だが30年はかかるだろう。」と言っていました。しかし，吉田貞次郎や村の人たちの開拓だましいはその半分ほどの年月で緑の田畑をよみがえらせたのです。

吉田貞次郎は，病気がもとで64歳でなくなりました。上富良野町開拓歴史広場に，『吉田貞次郎先生頌徳碑』が建っています。

吉田貞次郎碑

この碑は，吉田貞次郎の働きをたたえ，村の人たちが建てたものです。

(3)いせきや自然を守る

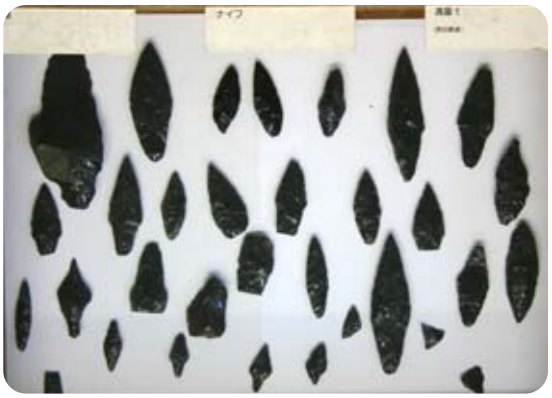
人々は，くらしをゆたかにするために，昔からどのようなはたらきかけをしてきたかを学びました。

ここでは，これからの地域（ちいき）のくらしをゆたかにするためには，どのようなことが大切かを調べていきましょう。

いせきを守る

右の写真は，今から数千年前の大昔の人が使っていた土器へんや矢じりで郷土館（きょうどかん）に大切に保存（ほぞん）されています。

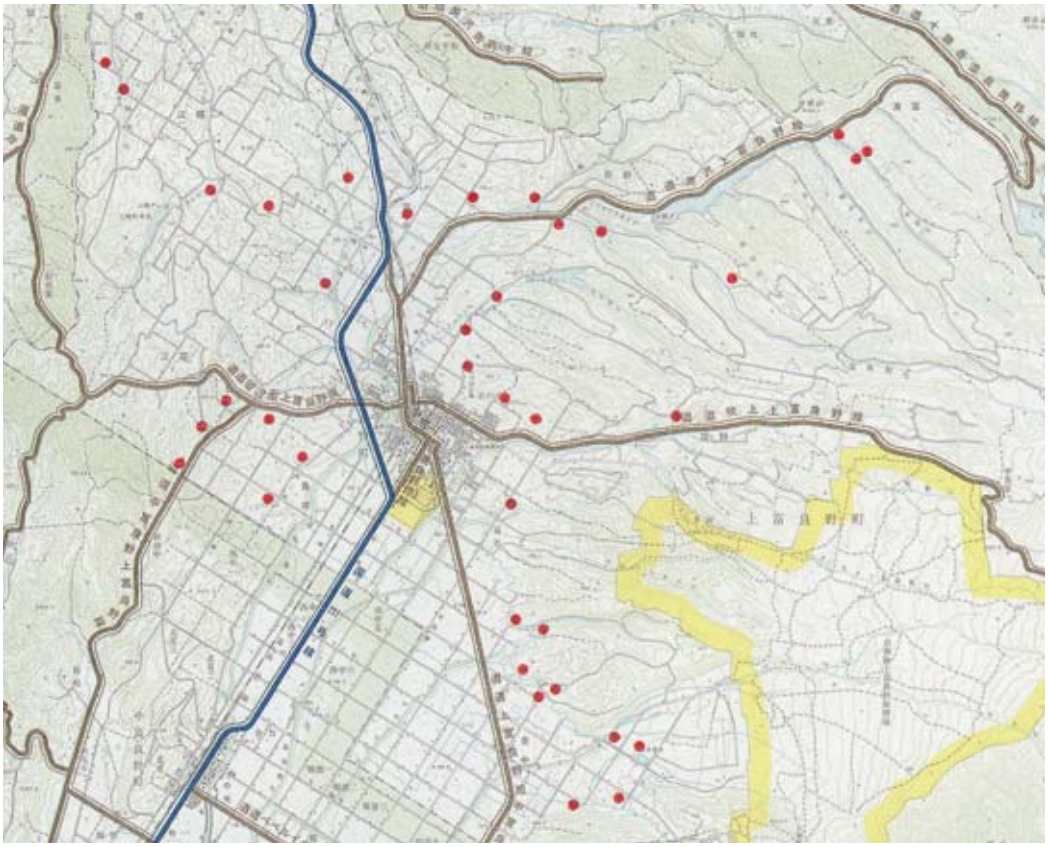
これらの土器へんや矢じりは，上富良野で見つかったものです。ですから，この地域にも古くから人が住んでいたことになります。



上富良野の石器や土器

いせきは，昔わき水や川の近くの，生活しやすかった所でよく見つかりました。

いせきは一度こわされてしまうと，もうもとのようにはなりませんので，わたしたちは，大昔の人が残してくれたいさんを，大切に守っていかなければならないと思います。



上富良野でいせきが見つかったところ

自然を守る

一度こわされると，もとにもどらないものに「自然」があります。

上富良野町は，十勝岳（とかちだけ）をはじめゆたかな自然にめぐまれたところです。

夏の十勝岳一帯は，エゾツガザクラ・キバナシャクナゲなど，美しい高山（こうざん）植物が一面に花をつけ，山を訪（おとず）れる登山者を楽しませてくれます。真夏でも雪があちこちに残り，エゾナキウサギ・エゾシマリスなどが，つかれた人々の心をほぐしてくれます。

この美しい山をいつまでもきれいにたもつために，南部森林室富良野事務所（じむしょ）がおかれ，管理していますが上富良野の人々や山を訪れる人たちの協力も必要なのです。また，上富良野山岳会（さんがくかい）では，山をきれいにするために，「クリーン大雪運動」を行っています。ごみひろいをしながら登山をする運動です。

十勝岳連峰

学習のまとめ

「上富良野の歴史といせき，自然」を学習して，わかったことや調べたこと，考えたことなどをまとめました。

まとめ

1　田中常次郎さんたちが，はじめて上富良野に住みついてから，多くの人々がうつってきて，たいへん苦労して田畑をつくってきた。

2　人々は，冷害・水害・十勝岳の噴火などに苦しみながら，生産を高めるために，たいへんな努力や苦労をしてきた。

3　地域に残されている『いせき』や『自然』は大切に守り，育てていかなければならない。

7 くらしのひろがり

わたしたちはこれまで，町の様子や人々のくらしについて調べ，いろいろな工夫をしていることを学習してきました。

ここでは，町のことだけではなく，もっと広く，北海道全体の様子がどのようになっているかについて調べてみましょう。

めあて

1　北海道の地図や写真などを使って，北海道の形や広がり，土地の様子などについて調べてみましょう。

2　北海道のおもな産業や生産物にはどんなものがあるのか調べてみましょう。

3　北海道の交通がどのようにつながっているのか調べてみましょう。

4　人々のくらしは，ほかの地域（ちいき）とどのように結びついているのか考えてみましょう。

(1)北海道の地図を広げて

〈位置と広さ・人口〉

北海道は，まわりが海にかこまれており，日本にある大きな四つの島(北海道・本州・四国・九州)のうちで，一番北にあります。

面積は，およそ83,500㎢(平方キロメートル)で，本州について，日本で二番目の大きさです。この広さは，日本全体のおよそ５分の１にあたります。

しかし，人口は541万人ほどで，日本全体のおよそ20分の１にしかあたりません。

北海道の位置

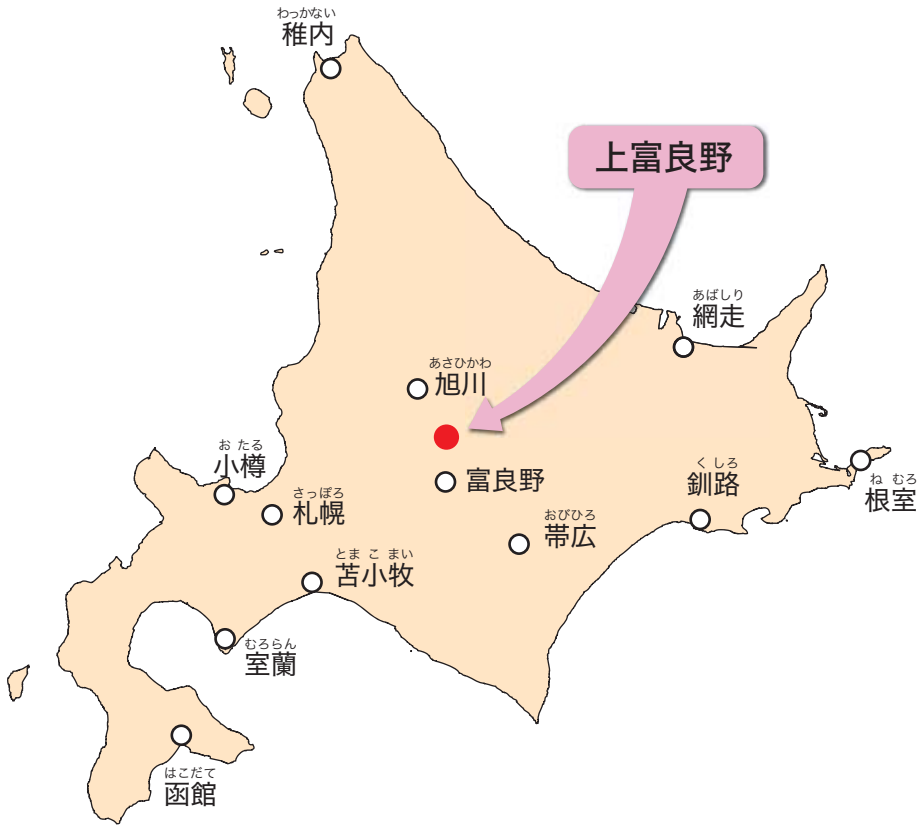
○地図を見ながら，北海道の白地図に，おもな市の名前，山地，平野や川をかきこみましょう。

〈北海道の広がり〉

北海道の地図を広げて，上富良野町をさがしました。

上富良野町は，北海道のまん中あたりにありました。南には富良野市があり，北には旭川(あさひかわ)市がありました。

北海道の地図全体を見ると，他にもたくさんの市がありました。



上富良野町の位置

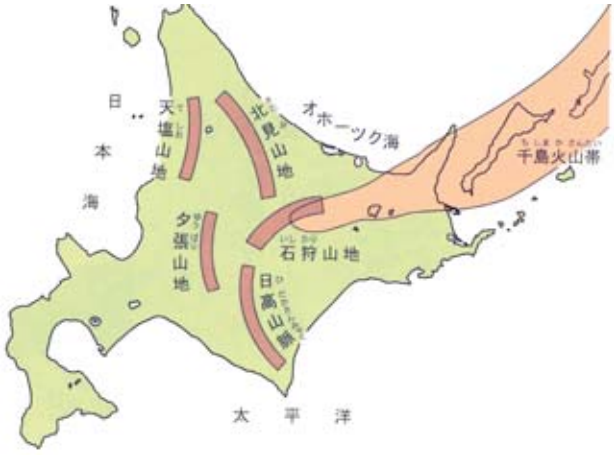
〈山　地〉

北海道の形を地図で見ると，大きなひし形をしたどう体部と，本州の方へつき出た半島部（渡島半島）からできていることがわかります。

上富良野から東の方に見える十勝岳のある山なみは，石狩山地とよばれています。

このほかの山地を見ると，北海道の中央を北から南へはしる，北見山地・天塩山地・夕張山地と日高山脈があり，せぼねのようになって，北海道を東と西に分けています。

さらに，中央部から東の方へは，千島火山帯がのびていて，いくつもの火山がつらなり，北海道の東の地方をオホーツク海側と，太平洋側の二つに分けています。



北海道の山地

北海道の山おくには，自然のままの森林が多く残っています。

〈平地と川〉

高い山から流れ出る水が集まり，大きな川となって，海にそそいでいます。

大きな川が流れている所には，平野や盆地が広がっています。北海道には，石狩平野をはじめ，広い平野や盆地・台地があって，平地にめぐまれてます。

わたしたちの町は，富良野盆地の中にあり，町の中を流れている富良野川は，空知川にそそいでいます。北海道の中を流れている大きな川として，石狩川・天塩川・十勝川などがあります。

石狩川が流れている所には，石狩平野や上川盆地があり，札幌市や旭川市などの大きなまちがあります。天塩川が流れている所には天塩平野があり，十勝川にそった所には十勝平野が広がっています。

北海道の平野・盆地・川

盆地として，富良野盆地のほかに，名寄盆地・北見盆地などがあります。

多くの人々は，このような平地で生活をしています。

(2)北海道の人たちのくらし

〈田畑のひろがり〉

北海道は東西南北に大きく広がっていて，地域によって夏の暑さや冬の雪の量などがちがいます。そのため，それぞれの地域の特色を生かした農業が行われています。

道央地域では，石狩川などの豊かな水と夏の暑さを生かし，たくさんのお米が作られています。また，野菜づくりもさかんです。

道東の十勝（帯広周辺），オホーツク(北見市・網走市周辺)では，広い土地を生かした大きなきぼの畑作が行われています。小麦や豆，ジャガイモなどが生産される，日本でも代表的な畑作地帯です。

道東の釧路・根室や道北の宗谷では，夏の気温が低いため，お米や野菜があまり育ちません。そのため，牧草地で牛を飼って牛乳を生産する酪農が行われています。

道南地域では，平らな土地が少なく，やや小さなきぼの農家が多くありますが，暖かい気候にめぐまれ，お米や野菜のほか，リンゴなどの果物も作られています。

生産量が全国トップクラスの北海道の農畜産物(平成22年)

上段:生産量　下段:全国にしめる割合

米	小　麦	じゃがいも	てん菜	大　豆	小　豆	いんげん
60.2万トン	34.9万トン	175.3万トン	309.0万トン	5.8万トン	4.9万トン	2.1万トン
7.1%	61.2%	76.6%	100.0%	26.0%	88.7%	94.1%

かぼちゃ	スイートコーン	たまねぎ	だいこん	にんじん	牛　乳	牛　肉
10.6万トン	10.7万トン	57.3万トン	16.2万トン	16.6万トン	390.2万トン	8.3万トン
48.1%	45.6%	54.9%	10.8%	27.9%	50.5%	16.2%

北海道農政部農政課政策調整グループ作成「教えて！アグリ博士」より

〈工場のひろがり〉

北海道では，道内の産物と結びついた工場が多く，いろいろな工場が道内にちらばっています。

○室蘭(むろらん)市は，よい港を持ち，早くから鉄鋼(てっこう)業が行われ

造船（ぞうせん）・セメント・石油化学工場などもあります。

○札幌（さっぽろ）市は，ビール・にゅうせい品などの食料品や，木材・家具・金ぞく製品（せいひん）などの工業がさかんです。

○苫小牧（とまこまい）市では，紙・パルプ工業のほかに石油せいせい工場やアルミニウム工場・自動車関連工場などもあります。

○釧路（くしろ）市は，水産加工がさかんですし，紙・パルプ工業も発達しています。

○旭川（あさひかわ）市は，紙・パルプ，木材・家具工業と，農産品加工業がさかんです。

このほか，函館（はこだて）・小樽（おたる）・根室（ねむろ）・稚内（わっかない）・帯広（おびひろ）市などでもそれぞれの土地の特色をいかした工業がさかんです。

〈交通のひろがり〉

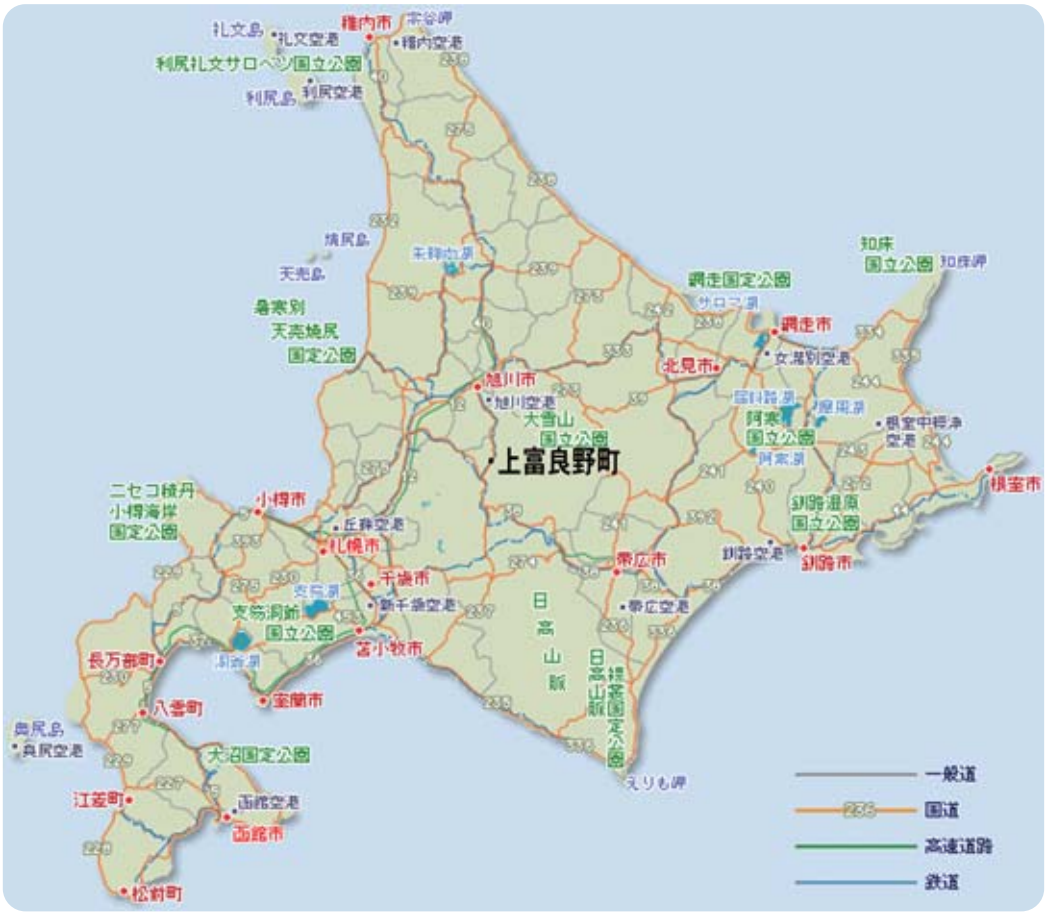
道内の各地でつくられた農産物や水産物，工業製品などは，トラックや鉄道で，道内のほかの町や道外へ運ばれていきます。

北海道の地図を見ると，鉄道と道路が，海岸にそったり，山地をこえたりして，まるであみの目のように広がり，道内の各地を結んでいることがわかります。

わたしたちの町の中を，ＪＲ富良野線と国道237号線

が通っています。

〇北海道の白地図に，おもな国道や鉄道を記入してみましょう。



北海道のおもな鉄道・道路

上富良野で生産された農作物をほかの町に運んだり，わたしたちの毎日のくらしに必要な物や，農家の人たちが使う肥料（ひりょう）や農薬などを運んだりするために鉄道や道路が，欠かすことのできない大切な役割を果たしています。物を運ぶために，船や飛行機も使われます。

国道を走る自動車

食べ物をはじめ，わたしたちのくらしに必要な物は，日本各地はもちろん，世界の多くの国々からも運ばれてきます。

(3)上富良野の観光

上富良野町は，十勝岳の麓（ふもと）に自然豊かな大地が広がり，温泉やラベンダーなどの観光資源（かんこうしげん）が多くあるため，町では観光イベントや「かみふらの八景」など観光名所を整備し，ホームページや観光パンフレットに紹介するなど町民とともに町全体で「おもてなしの心」で観光をもりあげています。町内には，ホテルやペンションの宿

泊施設のほか地元の農畜産物などが食べられるレストランなど観光施設に国内の観光客や外国人観光客が多く訪れ，観光が産業となっています。

かみふらの十勝岳観光協会のホームページ

また，平成２７年度からは，十勝岳と山ろく周辺の日本ジオパーク（地質遺産）認定を目指した取組もはじめています。

(4)これからの上富良野

わたしたちの町を，もっとよくするために，みんなで話し合ってみました。すると，下のような意見が出ました。

① 町のだいじな産業である農業をさかんにするために，農家の仕事のし方を工夫し，よい品種をつくり，たくさんとれるようにする。また，家ちくをふやし，森林を育てる。

② 美しい自然（十勝岳・千望峠・深山峠・日新ダム・ラベンダーなど）を生かし，町の人々のいこいの場や観光客の楽しみをふやす。

③ 周りが山に囲まれているため，川が多く，災害が起きやすいので，川の改修を進める。

④ 上・下水道や公園などを整備して，すみやすい町づくりをする。

⑤ 十勝岳の噴火や泥流などにそなえて，防災の施設を整え，総合的な防災訓練をみんなで進めていく。

このほかにも，町の人がより利用できる福祉施設のことや，交通事故を防ぐための工夫が出ました。

みんなも，
上富良野の町を，
より住みよく，魅力ある町に
するための方法を
話し合ってみよう。

学習のまとめ

「くらしのひろがり」を学習して，わかったことや調べたこと，考えたことなどをまとめてみました。

まとめ

1　北海道は土地が広く，連なった山々や大きな川があり，平地にもめぐまれている。

2　それぞれの地域では，その土地の特ちょうをいかして，田畑で作物を育てたり，工場で製品をつくったりしている。

3　鉄道や道路が，あみの目のように町や村とつながって，人や品物が運ばれ，わたしたちのくらしをゆたかにしている。

4　わたしたちのくらしは，日本の各地や世界の国々と強く結びついている。

私たちの住んでいる北海道について，自然や産業，他の地域とのつながりについてわかりました。

上富良野町のできごと

いつ		できごと
1807	文化　4	・近藤重蔵らが石狩川をたんけんして，上川地方まできた。
1857	安政　4	・松前藩の役人，松田市太郎らがはじめて十勝岳にのぼり，このあたりを調べた。
1858	安政　5	・松浦武四郎らが富良野地方をこえて，十勝に行く。
1869	明治　4	・開拓使の役所がおかれ，８月１５日に「えぞ地」というよび名を「北海道」と改めた。
1897	30	・４月１２日，三重団体（田中常次郎ら８名）が，草分に入地した。家族は５月４日にきて，全部で１８戸となった。
1899	32	・９月１日，富良野郵便局（現上富良野郵便局）ができた。 ・１１月１５日，旭川と上富良野の間に鉄道が開通した。 ・富良野戸長役場が上富良野におかれた。（今の南富良野，富良野，中富良野，上富良野のはんい。）

いつ		できごと	そのころの人口
1900	明治33	・田中常次郎，山口五平が，上富良野で初めて稲をつくる。 ・創成小学校ができた。 ・東中小学校ができた。 ・８月１日，鉄道が富良野までのびた。	
1902	35	・上富良野小学校ができた。 ・上富良野神社ができた。	
1903	36	・下富良野をどく立させ，上富良野村と改めた。	3,160
1904	37	・上富良野巡査駐在所ができた。	(1905年) 4,062
1908	41	・江花小学校ができた。	
1910	43	・江幌小学校ができた。 ・私設「上富良野消防組」ができた。	(1910年) 7,738
1911	44	・里仁小学校ができた。 ・日新小学校ができた。 ・電話の通話が始まった。	
1912	45	・公設「上富良野消防組」ができた。	(1915年) 16,622
1917	大正　6	・旭野小学校ができた。 ・中富良野村を分村した。	

いつ		できごと	そのころの人口
1920	大正　9	・市がい地に，電灯がついた。	10,691
1926	15	・５月２４日，十勝岳（とかちだけ）が爆発（ばくはつ）した。	(1925年) 10,026
1930	昭和　5	・山本運送店で，初めてトラックを買い入れた。	(1930年) 10,104
1934	9	・清富（きよとみ）小学校ができた。	(1935年) 11,092
1941	16	・１２月８日，太平洋戦争が始まった。	(1940年) 11,335
1945	20	・８月１５日，戦争が終わった。	12,484
1947	22	・上富良野中学校，東中（ひがしなか）中学校ができた。	
1948	23	・上富良野高等学校ができた。 ・えん線に，バス（道北バス）が通るようになった。 ・ラベンダーのさいばい（東中・上田美一）が始まる。	
1949	24	・６月１０日，北栄（ほくえい）区に大火事があった。	
1950	25	・日新中学校，江幌中学校ができた。 ・８月１日，町制（ちょうせい）がしかれた。	13,261
1951	26	・上富良野町公民館ができた。	
1952	27	・教育委員会ができた。	

いつ		できごと	そのころの人口
1955	昭和30	・陸上自衛隊駐屯地ができた。	16,918
1957	32	・富良野線に，ディーゼルカーが走るようになった。	
1958	33	・町立病院ができた。	
1962	37	・６月２９日，十勝岳噴火，死者４名，ゆくえ不明１名	(1960年) 17,101
		・旭野小学校を，上富良野小学校にとう合した。	
1964	39	・江幌中学校を，上富良野中学校にとう合した。	(1965年) 16,204
1966	41	・日新中学校を，上富良野中学校にとう合した。	
		・８月，日新ダムの工事が始まった。	
		・上富良野西小学校ができた。	
1967	42	(創成・江花小学校をとう合，上五区一部西小校区となる。)	
		・町営日の出スキー場ができた。	
1968	43	・農村集団電話ができた。	
1970	45	・上川南部消防事務組合ができた。	15,791

いつ		できごと	そのころの人口
1971	昭和46	・公民館（福祉センター）ができた。	
1972	47		
1973	48	・上水道ができた。 ・里仁小学校を，上富良野西小学校にとう合した。 ・老人福祉センターができた。	
1974	49	・日新ダムが完成した。	
1976	51	・上富良野高等学校が道立高等学校になった。 ・１２月，東中会館ができた。	（1975年） 14,870
1977	52	・町営野球場が完成した。 ・日の出公園が完成した。	
1978	53	・郷土館ができた。 ・東中地区かんい水道給水が始まった。	
1979	54	・日新小学校を，上富良野西小学校にとう合した。 ・上富良野町学校給食センターができた。	
1980	55	・農村集団電話が一般電話に切りかえられた。 ・島津公園が完成した。	14,441

いつ		できごと	そのころの人口
1981	昭和56	・東中小学校が改築された。 ・8月23日，台風15号による災害で7億6000万円の被害をうけた。 ・町花にラベンダー，町木にアカエゾマツが決まる。	
1982	57	・上富良野小学校校舎が増改築された。	
1983	58	・防災行政無線通信しせつができた。 ・町制施行30周年を記念して「まちの映画」ができた。	
1984	59	・上富良野小学校体育館が改築された。 ・上富良野十勝岳災害復興60周年記念。三浦綾子が執筆した「泥流地帯」の文学碑が建てられた。 ・特別養護老人ホーム「ラベンダーハイツ」ができた。	
1985	60	・カナダ・アルバータ州カムローズ市と上富良野町が友好都市になった。	14,127

いつ		できごと	そのころの人口
1987	昭和62	・社会教育総合センターができた。	
1988	63	・国道２３７号線上富良野バイパスが完成した。 ・１２月，十勝岳が噴火した。	
1990	平成　2	・江幌小学校が改築された。	13,265
1991	3	・草分防災センターができた。 ・Ｂ＆Ｇプールができた。 ・じょう化センター（下水道）ができた。 ・泉栄防災センターができた。	
1992	4	・デイサービスセンターができた。 ・東中じょう水場（上水道）ができた。 ・学校週５日制が始まった。	
1993	5	・東中コミュニティ広場ができた。 ・戦後最大の冷害に見まわれた。	
1994	6	・清富小学校が改築された。 ・ラベンダー発祥の碑が建てられた。	

いつ		できごと	そのころの人口
1995	平成 7	・武道館が完成した。	12,881
1996	8	・西保育園が新築された。 ・農業情報センターが完成した。	
1997	9	・開基１００年記念式典が開催された。 ・三重県津市と姉妹都市となった。 ・かみふらの歴史広場，開拓記念館ができた。 ・軽費老人ホーム「ハイムいしずえ」ができた。	
1999	11	・クリーンセンターができた。 ・ショートステイができた。	
2000	12	・ペットボトルを加えて６種類のゴミ分別収集に変更された。 ・郷土芸能資料館が完成した。 ・上富良野西小学校が改築された。 ・東中小学校開校１００年記念式典が開催された。	12,809

いつ		できごと	そのころの人口
2001	平成13	・交通死亡事故ゼロ５００日達成。 ・東中コミュニティ広場パークゴルフ場ができた。 ・日の出公園オートキャンプ場が完成した。 ・新たにプラスチック類のゴミ分別が開始された。	
2002	14	・上富良野小学校開校１００年記念式典が開催された。 ・ゴミ処理が有料化となった。	
2003	15	・上富良野町パークゴルフ場が完成した。 ・上富良野高等学校新校舎が完成した。	
2004	16	・第１回「かみふらの花と炎の四季彩まつり」が開催された。 ・保健福祉総合センター「かみん」がオープンした。	
2005	17	・上富良野町図書館，愛称「ふれんど」が開館した。	12,352

いつ		できごと	そのころの人口
2006	平成18	・清富小学校を，上富良野西小学校にとう合した。 ・十勝岳火山防災マップが発行された。	
2007	19	・交通死亡事故ゼロ１０００日達成。	
2008	20	・富良野広域連合がつくられた。	
2009	21	・富良野広域連合消防がつくられた。 ・かみふらの特・得商品券（プレミアム商品券）が発売された。	
2010	22	・江幌小学校開校１００周年を迎えた。	11,545
2012	24	・十勝岳で発光現象が確認された。	
2013	25	・上富良野の観光の公式キャラクター「らべとん」が誕生した。	
2014	26	・東中中学校を上富良野中学校にとう合した。 ・上富良野小学校が改築された。	

いつ		できごと	そのころの人口
2015	平成27	・江幌小学校を上富良野西小学校にとう合した。 ・交通死亡事故ゼロ２０００日達成。 ・駐屯地創立６０周年の記念行事が行われた。	11,185 （10月1日現在）

私は「らべとん」です。
町のアイドルとして、町の美しいけしきとかみふらのポークのおいしさを伝えるため、観光ＰＲしています。

表紙の写真は町の広報誌（平成27年新春号発行）の十勝岳連峰から昇る初日の出です。

あ と が き

この度，第11次目の改訂版副読本「かみふらの」を完成させることができましたことを皆様とともに心から喜び合いたいと思います。

この副読本は上富良野町の3・4年生が社会科の郷土学習の資料とするために作成したものです。実際に学校で授業をされている先生方のご意見を参考にしたり，新しい資料を挿入したり，今日の教育的ニーズに合うように文章表記を改めました。上富良野町のより多くの子供たちの役に立つものであることを願うと同時に，担任される先生方の積極的な活用を期待しています。

変化の激しい時代にあって，ふるさとを知り，ふるさとに根ざす教育の大切さは今も昔も変わりません。そのためにも，この副読本が活用され，ふるさとを愛する子供たちが増えることを願っています。

特に，今回の改訂に当たっては，写真の全面的な見直しとともに，子供たちの学習への取組や話し合いが進めやすいように例示や書き込みスペースなども多くしています。工場やスーパー，農家の仕事なども，それぞれ新たに取材をし，最新の内容に切り替えました。観光や災害時の対応など，記述を詳しく加筆したところもあります。今後も時代にあった副読本を目指してまいりますので，先生方がご使用中に感じた問題点や改善点等をご指摘いただければと思います。

最後になりましたが，多忙の中にもかかわらず現在の社会科の学習活動にあった副読本にしたいと編纂業務に当たられた委員の先生方，貴重な資料提供や快く取材に応じていただいた地域の皆様，さらに，多くのご支援をいただいた関係者の皆様に，心より感謝申し上げます。

社会科副読本「かみふらの」編纂委員長(第11次改訂)

黒　田　広　幸

平成２７年度副読本編纂委員（第１１次改訂）

委員長
黒　田　広　幸（上西小）

副委員長
川　村　寿　典（上西小）

事務局長
相　馬　美智枝（東中小）

委員
中　田　祐　二（上富小）　松　永　久　美（上富小）
中　西　洋　明（上西小）　小　山　薫　雄（東中小）
石　山　琢　也（上富中）　野　崎　孝　信（町教委）
及　川　光　一（町教委）　佐　藤　博　光（町教委）

社会科副読本改訂版　か　み　ふ　ら　の

発行者　上富良野町教育委員会　教育長　服　部　久　和

編集者　上富良野町教育委員会
社会科副読本編纂委員会

発行年月日　昭和５２年９月14日

第　１次改訂　昭和５５年３月１日
第　２次改訂　昭和５８年３月１日
第　３次改訂　昭和６１年３月１日
第　４次改訂　平成　元年３月１日
第　５次改訂　平成　４年４月１日
第　６次改訂　平成　６年３月１日
第　７次改訂　平成１０年３月１日
第　８次改訂　平成１２年３月１日
第　９次改訂　平成１７年４月１日
第１０次改訂　平成２３年３月１日
第１１次改訂　平成２８年４月１日

印刷製本　植平印刷株式会社　旭川市9条通7丁目左2号
TEL 0166-26-0161　FAX 0166-25-1039

上富良野町立	小学校
名 前	